

論 記 告 白

土木學會誌 第七卷第五號 大正十年十月

水路ノ呑口及ビ吐口ニ於ケル水流特ニ
河口ノ水流ニ就イテ

會員 工學士 山 口 昇

目 次

緒論	一	二
一 水流ノ性質一斑及著者ノ研究順序	二	二
二 流線函數 (Stream function) ド速位 (Velocity potential)	三	三
三 らむノ動水力学ニ載シルニ流線式	四	四
四 任意ナル角度ヲナスニ隔壁ノ流線式	五	五
五 三ツノ代表的流線式ニ就イテノ詳論	六	六
六 吞口又ハ吐口ノ水位	七	七
七 河口水流ノ實例	八	八
八 河口ニ於ケル土砂堆積	九	九
九 餘論	十	十
附圖	十一	十一

論 説 報 告 水路ノ呑口及ビ出口ニ於ケル水流特ニ河口ノ水流ニ就イテ

二

附圖第一 平行隔壁ノ流線圖

附圖第二 一直線隔壁ノ流線圖

附圖第三 直角隔壁ノ流線圖

附圖第四 $\varphi - S$ 圖表

附圖第五 $V - S$ 圖表

附圖第六 みししっぴー南西口圖

附圖第七 みししつびー南西口流線圖

附圖第八 等速線圖

附圖第九 $T - S$ 圖表並ニみししつびー南西口等時線圖

緒 論

水流ニ關スル研究ハ今日ノ所デハ不幸ニシテ未ダ理論物理學ニ其ノ基礎ヲ置ク動水力學 (Hydrodynamics) ト實驗物理學ニソノ基礎ヲ置ク水理學 (Hydraulics) トノ間ニ著シキ懸隔ノ存スル爲メニ一元的ニ體系ヲナスニ至ラナイ此事ハ物理學的ニ嚴密ニ水流研究ヲナスモノニ取ツテ極メテ重大ナル問題デアラネバナラナイ而シテ多クノ學者ガ此レガ解決ニ多大ノ精力ヲ費シツ、モ不幸ニシテ今日ノ所此ノ懸隔ハ未ダ取除カルベクモ見エナイ

然シ乍ラ水流利用ヲ目的トスル水理學者ノ間ニ於テハ實驗ニソノ基礎ヲ有スル水理學的ノ方法デ今日デハ多クノ場合ニ不都合ナキ程度ノ精密ナル計算ヲナスコトヲ得ルニ至ツタ例ヘバ斷面ニ大ナル變化ナキ河川運河ニ於ケル定流又ハ斷面ガ極端ニ急變スル堰缺口等ノ定流ニ關シテハ多クノ實驗的研究ノ結果相當信賴スルニ足ルベキ實驗式ヲ發案サレテキル只一ヶ今日マデ斯クノ如キ水理學者ノ研究ニ浪レタル感ガアルノハ上記ノ二極端ノ場合ノ中間ニ位スペキ河川運河ノ呑口及吐口ノ水流ニ就イテノ計算デアル様ニ思ハレル從來斯カル問題ニ關シテ記述的ノ説明ヲ與ヘタ人々ハ少ナクナイガ

多少トモ理論的計算ヲ敢テシタ例ハ甚ダ少ナイ様デアル此レハ寧ロ不思議ノ事デ或ハ著者ノ寡聞ノ罪ニ歸セラルベキモノカモシレナイ

斯クノ如キ問題ヲ解決セントスル際動水力學ト水理學トノ懸隔ヲ取除カズシテ此ヲ行フニ當リ最モ直接ニ效果ヲ擧ゲ得ル方法トシテヤハリ實驗ニ基礎ヲ置クニアルコトハ明デアルガ不幸ニシテ著者ハ實驗ニヨル機會ヲ有セナカツタ爲メニ甚ダ大膽デハアルガ大ナル懸隔アルヲ無視シテ動水力學ノ數學的所產ト水理學ノ實驗的所產トヲ結合シテ此ノ問題ノ解決ヲ試ムルヨリ外ナイノデアル斯クノ如キハ元ヨリ理論上可成ニ無理ナル方法デアル事ハ明デアルガ多少ノ嚴密度ヲ犠牲ニ供スルトモ斯クノ如キ方法デ萬一實用上差支ナキ結果ヲ導出スルコトガ出來レバ實驗ニ基礎ヲ置イテ導出サレタル實驗式ト同價値ノモノデアラウト思フ即チ著者ハ此處ニ動水力學ノ理論ヲ實驗ノ代リニ基礎條件トシテ使用シテ一個ノ實用式ヲ導出スル目的デアル而シテ其ノ結果ヲ一二先賢ノ調査記錄ト照應セシメテ見タ次第デアルガ此處ニモ不幸ニシテ充分ノ材料ヲ見出セナカツタ從ツテ導出シタル結果ガ果シテ凡テノ場合ニ普遍的ニ適合スルヤ否ヤニ就イテハ甚ダ疑ナキ能ハズ此レ著者ガ本文ヲ掲ゲテ斯クノ如キ實際問題ニ多クノ經驗ヲ有セラル、諸先輩ノ御高教ニ浴セントスル次第アル

— 水流ノ性質一斑及著者ノ研究順序

おほぼーん・れーのるづ教授ノ有名ナル實驗 (Osborne Reynolds; Scientific Papers Vol. II, p. 51-p. 105; p. 153-p. 162)

ニヨンバ直線管内ヲ流レル水流ニハ二種類アリ或限界速度ヲ境トシテ其レヨリ小ナル流速ニ對シテハ水流ハ懶あらじる (Poiseuille) ノ實驗トシテ知ラレテキル整正ナル平行層ヨリナル薄層運動 (Laminar motion) ヲナシ限界速度以上ニ達スレバ水流ハ渦動及振動ヲ混ヘタル極メテ複雜ナル亂流 (Sinuous flow, or turbulent flow) ヲナス而シテ其ノ限界速度ハ水ノ粘性ニ比例シ管ノ大サニ逆比例スルトイフ今限界速度ヲ w_0 管ノ半徑ヲ a トシ粘性ヲ η ト置ケバ

$$\frac{w_0 a}{\eta} \approx 1,000$$

通常ノ水ニ於テハソハ〇・〇一八ナルヲ以テ半徑一糧ノ管ニ於テハ限界速度ハ每秒一八糧ノ小ナル値トナル (Lamb : Hydrodynamics p. 592) 此ノ限界速度ハ尙管壁ノ粗滑及管ノ彎曲等ニヨリテ大イニ變化スル上ノ結果ハ滑カナル直線硝子管ニ就イテノ結果デアルカラ吾々ノ河川運河等ニ於テハ限界速度ハ尙一層小ナル値ヲ有スベシ即チ吾々ノ河川運河ニ於テ起ル水流ハ殆ンド凡テ亂流ト見テ差支ナシ

薄層運動ノ範圍ニ於テハ水ニ多少ノ粘性ヲ考入シテ純粹ナル動水力學ノ理論ニヨリ直線ニ流レル場合ハ實際トヨク一致スル結果ヲ誘導シ得斯クノ如キ水流デハ水流ノ抵抗ハ速度ノ一乘ニ比例スル場合デアツテ實用ニ供セラル、コト少ナイ而シテ遙カニ實際的ナル亂流ニ關シテハ動水力學ノ理論ニシテ適合スベキモノハ今日ノ所デハ未ダ求メラレテキナイ拟吾々ノ問題トスル呑口及吐口ニ於テハ斷面及水流ノ方向ガ各所ニ異ルベキニヨリ吾々ハ先づ以ツテ流線ノ方向ヲ決定スルコトガ肝要デアル然シ乍ラ上述ノ如ク直線ニ流レル亂流ニ關シテモ既ニ動水力學理論ノ解決ハ困難デアルノデ此ノ方法ニヨツテ呑口及吐口ノ流線ヲ見出スコトハ全ク不可能トイフベク一步退イテ粘性理論ニヨル薄層運動ト見做シテモ既ニ呑口吐口等ノ解決ヲ求ムルコトハ極メテ複雜ナル數式ヲ生ジ此レガ解決ハ甚ダ困難デアル

著者ハ此處ニ於テ致シ方ナク粘性ヲ無視シ完全液體ト考ヘテ導出シタル動水力學ノ流線ヲ種々ナル境界條件ニ對シテ求メ之ヲ適宜ノ尺度ヲ以テ描出シテ實際ニ起ル流線ト照應セシメタノデアル而シテ適宜ニ照應シタナラバ其ノ流線内ノ水流ハ凡テ完全液體ノ流線ノ性質ヲ帶ブルモノト考ヘテ各點ノ速度及勾配等ヲ計算スルコト、シタ勿論實際河口等ニ於テ起ル水流ハ細カク検察スレバ亂流ヲ多分ニ有シテキルケレドモ大體ニ於テ甚シキ屈折ナキ流線ヲナスコトハ多クノ浮子等ニヨル實測ノ示ス所デアル斯クノ如クシテ亂流ヲ無視スルコトハ水流ノ微量ニシイテ分子的ニ研究スルノデナク或有限ノ範圍ヲ大マカニ捕ヘ來シテ其ノ全體トシテノ運動ノ平均値ヲ考ヘレバ足リル場合ニハ其ノ結果ニ性質的ニ亘ル矛盾ハ來サナイト思ハレル唯數量的ニハ多少ノ差異ヲ生ズルデアラウガ其レハ所謂實驗係數ノ導入ニヨツテ適宜實驗ニヨツテ補正シウルモノデアル粘性ヲ無視スルコトハロード・れーれー (Lord Rayleigh) ニヨレバ亂流ノ場合ニハ却ツテ實

際ニ近イ (Lamb: Hydrodynamics p. 593) トイフコト又だるしーノ實驗もろー (Morrow) ノ研究等ニヨレバ亂流ノ際ノ平均速度ハ存外斷面ノ各點ニ於テ大差ナク單ニ壁ニ極メテ近キ部分ニノミ著シク差ヲ表ハス (Lamb: Hyd. p. 593) 等ノ事ヨリ個體ニ接觸スル附近ヲ除イテハ 完全液體ノ流線論ハ可ナリニ近似的ノ適合カ可能ナルカノ如ク察セラレル

完全液體ノ流線論ハ水流ハ何等粘性摩擦力ノ如キ應剪力ナク且其ノ運動ハ非旋迴性 (Irrotational) ナリトイフ假定ノ下ニ生マル非旋迴性トイフハ水流中ノ如何ナル點ニ微量ヲ取ツテ見テモ其ノ運動ニ廻轉性ヲ有セザルコトデアツテ斯カル場合ニ於テハ水流ヲ研究スルニ一ツノ補助函數ヲ用ヒテ甚ダ解決ヲ容易ニスルコトヲ得此ノ補助函數ヲ速位 (Velocity potential) トイフ即非旋迴性ノ完全液體流ニ於テハ速位ガ成立スル而シテカ、ル時ハ水流運動ハ力學的考察ヲ離レテ單ニ動學的 (Kinetics) ハ歸セラレ從テ單純ナル數學ノ應用ヲ自由ナラシムル便ガアル因テ著者ハ此ノ場合ニ基礎ヲ置キ其ノ結果ヲ漸次旋迴性ノ運動亂流ニ擴張セントス

次ニ問題トナルハ水流ヲ形成スル水分子ガ質量ヲ有スル爲タニ水流ガ急角度ニ屈折スル個體面ニソウテ流ル、トキハ水分子ハ慣性ヲ有シ屈折點ニ於テハ個體面ヲ離レルモシスクノ如キ空所ヲ充タスニ空氣ヲモツテスレバ水流ハ噴射 (Jet) ノ狀況ヲ呈スルニ至ル噴射ノ理論的研究ハ既ニへるむほるつ及あるひほふニヨツテナサレテキルケレドモ河川運河ノ呑口及吐口ニ於テハ空所ヲ充タスニヤハリ水ヲ以テスル此爲メニ其ノ境界面ハ著シク動搖ヲ來タスコトハれ一のるづノ實驗ニヨツテ知ラレテキルれ一れ一ハ斯クノ如キ動搖ハ境界面ヲ少シク離レ、バ其ノ影響ハ大シタモノデハナイト言ツテキルガロード・ケルビン (Lord Kelvin) バコノト全ク反對ノ說ヲ出シテキル (Lamb: Hyd. p. 97-99) 吾人ノ場合ニ於テハ水流ガ噴射ヲナシテ不變斷面ヲ有シ長ク海中ニ整流 (Uniform flow) トシテ流入スル様ナコトハ考ヘラレナイ此事ハ餘論ニ於テ詳シタ述ベル

次ニ運動ヲ三軸的ニ考ヘルコトハ數學ノ應用ヲ複雜ニシテ自然極メテ小範圍ノ解決ヨリ望マレナイ呑口吐口ノ如キ場合論說報告 水路ノ呑口及ビ吐口ニ於ケル水流特ニ河口ノ水流ニ就イテ

ノ解決ハ見出シ難イ從テ著者ハ平面ト縦断面トヲ別途ニ取扱シテ問題ヲ凡テ二軸的タラシメ然ル後ニ其ノ兩者ヲ多少ノ精密度ヲ犠牲ニシテ結合スルコト、シタ
以上述ベタコトハ凡テ定流 (Steady flow) ニ關シテノ積ツデアルガ實際ニ河口等デ起ル水流特ニ潮汐干満ノアル河口ノ如キハ時間ガ重要ナル要素ヲナシテキルスクノ如キ場合ノ理論的ノ解決ハ著者ニトツテハ未ダ不可能ノコトデ此等ニツイテハ餘論ニ於テ一言觸ル、ニ過ギナイ舉グテ後日ノ研究ニ譲ル次第デアル

II 流線函數 (Stream function) & 潛能 (Velocity potential)

非壓縮性液體ノ連續式
(Equation of continuity) $\frac{A_1}{A_2} = \frac{V_2}{V_1}$ ハノ軸の關係ニ於テ通常ノ書キ方ニ從ヘバ次ノ如シ

コハニ u v
バ x 及 y 軸
ニ沿フ 分速度 デアル 今或函數 φ 次ノ如キ關係ニヨツテ導キ來ルトキ

(1) ノ 条件ヲ 薩足スルカハ 非難審査を 豊ノ車動力ヲ 斯究スレ爲メニ至便ナ

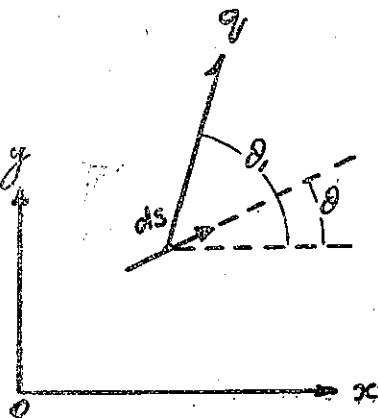
ル一種ノ補助函数デアツテ其ノ物理的意味ハ次ノ如ク説明サレル

メノ全微分ヲトリ

$$d\psi = \frac{\partial \psi}{\partial x} dx + \frac{\partial \psi}{\partial y} dy = v dx - u dy$$

$$= q \sin \theta_1 ds \cos \theta - q \cos \theta_1 ds \sin \theta = q ds \sin (\theta_1 - \theta) = q_n ds$$

四 $ds = \sqrt{dx^2 + dy^2}$ は直角ノ分速度何レモ矢ノ方向ヲ以テ正トス
 $q = \text{速度}, \quad ds = \text{線要素} (\text{Line element}),$



即 $d\psi$ ハ單位時間ニ ds ヲ超エテ右ヨリ左ニ流レタ流體ノ量ヲ示ス $\psi = \text{Const.}$ ナラバ $d\psi = 0$ 即 ds ヲ超エテ流レル水量ハ零、換言スレバ $\psi = \text{Const.}$ ハ流體ノ流レル道行ヲ示スモノト考ヘラル因テ ψ ヲ流線函數 (Stream function) ト稱スル(1)(2)ノ關係ハ水流ガ廻旋的ナル場合ト雖モ成立スル非廻旋的ナルトキハ此ノ外ニ尙次ノ如キ函數 ψ ガ存在スル

$$(1) \quad \text{If } \alpha = 0, \text{ then } \frac{\partial}{\partial x} \left(\frac{\partial u}{\partial x} \right) = 0.$$

或ハ簡単ニシテ次ノ如ク書ク

$$0 = \phi_i A$$

イフ オハ位函數 (Potential function) ルシテ保ツタルモノトヨロノ場合ハ速度リ關係アルタ以テ速位 (Velocity potential) ルシテ

此式ノ u 及 v ニ(2)式ヲ入レテ

$$\text{又 } \forall i \in \{1, 2, \dots, n\}, \quad \hat{\phi}_i A = 0$$

即非壓縮性ニシテ且非旋廻的ナル水流運動ニ於テハ流線函數ニ關シテモ恰カモ速位函數ト同一ノ性質ヲ與ヘラレル此ノ事ハトシトハ置キ換ヘテモ依然トシテ凡テノ條件ヲ満足スルコトヲ意味スル即非旋廻的水流ニ於テハ一ツノ運動

ニ對シテ常ニコレニ共軛ナル他ノ運動ガ存在スルト云ヘル其ノ共軛ナル運動ニ於テハ ψ ヲ速位トシ ψ ヲ流線函數トスルモノデアル又 $\varphi = \text{Const.}$ ハ $\psi = \text{Const.}$ ハ直交線 (Orthogonal trajectories) ハナス

$$0 = (n-)(a-) + an = \frac{ie}{\phi e} \cdot \frac{ie}{\phi e} + \frac{ae}{\phi e} \cdot \frac{ae}{\phi e}$$

畢竟スルニ非壓縮性液體ノ非旋廻的運動ヲ論ズルニハ(4)及(6)ヲ満足スル φ 及 ψ ノ二函數ヲ求メナケレバナラナイコレニハ函數論ニ於ケル共轭函數(Conjugate functions)ノ理論ヲ用フルガヨイ

考へ
及し、 λ 組合セテ復素函数 $\varphi + i\psi$ ヲ作リ、コレ λ α β 組合セタル復素數 $x + iy$ ノ一意函数 (Monogenous function) ト

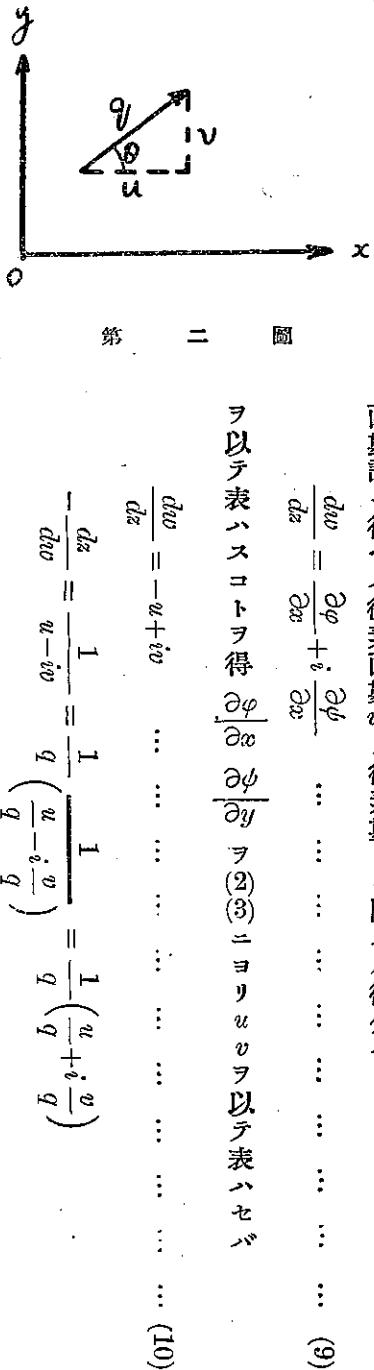
又ハ簡單ニスル爲メ

$$(\delta\zeta + \alpha)f = \phi_1 + \delta$$

ト置ケバ

函數論二從ハバ復素函數 w ノ復素數 z ニ關スル微分ハ

ヲ以テ表ハスコトヲ得
②(3)ニヨリウレタ以テ表ハセバ



$$\frac{u}{q} = \cos \theta, \quad \frac{v}{q} = \sin \theta$$

即 $-\frac{dz}{dw}$ の絶対値は速度の逆数値と與へ $-\frac{dz}{dw}$ の微角 (Argument) は速度の方向と與へ

(7) 式ヲ以テ表ハス、函数 ϕ ノ形ヲ種々ナル場合ニ對シテ求メルニハ、通常逆ニ色々ノ形ノ ϕ ヲ作ツテソノ周界條件ヲ満足スルヤ否ヤヲ檢シテ見ル方法ヲ用ヒル而シテ周界條件ヲ満足スル ϕ ノ形ガ求メラルレバ、 ψ 及 ψ_2 の及 ψ_3 ニヨツテ表ハスコトモ出來、從ツテ ψ 及 ψ_2 ノ圖形ヲ描クコトガ出來ルノデアル。

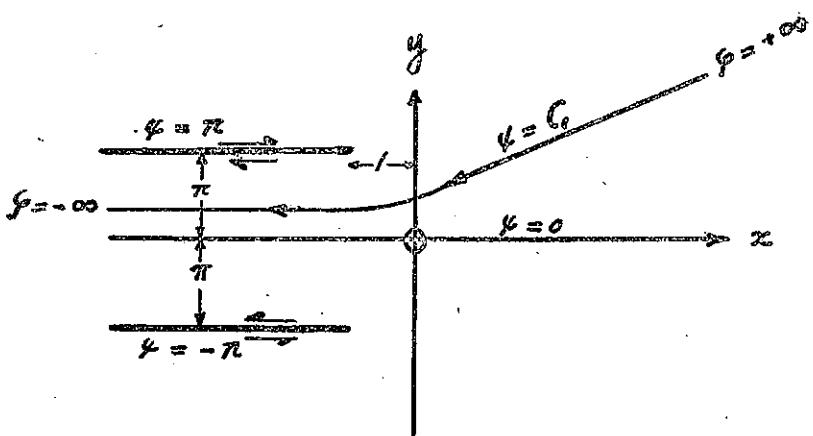
幸ニシテゾノ種々ナル形ガ既ニ先賢ノ手ニヨツテ求メラレテキル吾々ノ必要トスル場合ニ關シテハラムノ動水力學書ニ記載サレタルニツノ場合ヲ先ヅ吟味スル必要ガアル

三 らむノ動水力學ニ載レルニ流線式

I 二ツノ薄キ平行壁ヲ有スル運河ノ入口又ハ吐口コレハへるむほるつノ考案ニナル有名ナモノデアル

此ヨリ逆函數ヲ求メ

トスヘるむほるつガ平行壁ノ場合ニ與ヘタルハ此ノ形ニ於テハアル即



第三

(11) (12) ニヨリ $\frac{d\omega}{dt}$ ノ絶對值ハ速度ノ逆數値ヲ其ノ微角ハ速度ノ方向ヲ與ヘル(14)ニツイテ此計算ヲ行ヘバ

此値ヲ検スルトキハ極メテ大ナル φ ノ正值ニ對シテハ $- \frac{dx}{du}$ $= -\infty$ ニ近ヅク從テ速度 $\dot{x} = 0$ ニ近ヅク又 φ ノ極メテ大ナル負値ニ對シテハ $- \frac{dx}{du}$
 $= +\infty$ ニ近ヅク從テ速度 $\dot{x} = \pm \infty$ ハ大サ₁方向ハ φ ノ負ノ方向ニ向フコトヲ知ル
吐口ノ場合ニ於テハ單ニ φ ノ附號ヲ變ズレバ可ナリ此コトハ(15)ニ於テ明カ
デアル然ルトキハ

$$-\frac{dz}{dw} = 1 + e^{-w} = 1 + e^{-\varphi} \cos \psi - i e^{-\varphi} \sin \psi \quad \dots \quad (17)$$

コノ流線ノ一般ノ景況ハ別紙附圖第1ノアリ

II 一ノ薄キ平面隔壁ノ缺口ヲ通ジテ片側コリ他ノ側ニ流出ベル場合

斯クノ如キ水流ハ次ノ式ニテ與ヘラシ

$$z = c \cosh w = \frac{c}{2} (e^w + e^{-w}) \quad \dots \quad (18)$$

$$\text{or } x = c \cosh \varphi \cos \psi = \frac{c}{2} (e^\varphi + e^{-\varphi}) \cos \psi \quad \dots \quad (18)$$

$$y = c \sinh \varphi \sin \psi = \frac{c}{2} (e^\varphi - e^{-\varphi}) \sin \psi \quad \dots \quad (18)$$

$$\frac{x^2}{c^2 \cosh^2 \varphi} = \cos^2 \psi, \quad \frac{y^2}{c^2 \sinh^2 \varphi} = \sin^2 \psi$$

$$\therefore \frac{x^2}{c^2 \cosh^2 \varphi} + \frac{y^2}{c^2 \sinh^2 \varphi} = 1 \quad \dots \dots \dots \dots \dots \dots \dots \quad (19)$$

$\therefore \varphi = \text{Const.}$ ハ此種圖ハ一族ヲ作ル其焦距距離

$$2V \sqrt{\frac{c^2 \cosh^2 \varphi - c^2 \sinh^2 \varphi}{c^2 \cosh^2 \varphi + c^2 \sinh^2 \varphi}} = 2c \quad \dots \dots$$

次ノ(18)圖ニシテ上ナシ

$$\frac{x^2}{c^2 \cos^2 \psi} - \frac{y^2}{c^2 \sin^2 \psi} = 1 \quad \dots \quad (20)$$

$\therefore \psi = \text{Const.}$ ハ此種雙曲線ノ一族ヲ爲シ其焦點ハ橢圓ノノン

同様ナシ

隔壁ハ x 軸ト一致シ流線 $\psi = 0$ ハ $x = +\infty$ ヲリ隔壁ノ $y > 0$ ノ側ニ沿フテ來リ $x = +c$ ハ於テ急ニ折レ曲リ壁ノ $y < 0$ ノ側ニ沿ヒテ再ヒ $x = +\infty$ ニ去ル $\psi = -\pi$ ハ $x = -\infty$ ヲリ壁ノ $y > 0$ ノ側ニ沿ヒテ來リ $x = -c$ ハ於テ折曲リ壁ノ $y < 0$ ノ側ニ沿ヒテ再ヒ $x = -\infty$ ニ去ル $\psi = -\frac{\pi}{2}$ ハ y 軸ニ一致シ $y = +\infty$ ヲリ $y = -\infty$ ニ至ル $0 < \psi < \pi$ ノ間ニアルダノ値ハ全平面ヲ蓋フ流線ヲ與フ即(18)ハ x 軸ヲ隔壁トシ其一部2ナル缺口ヲ通ジテ $y > 0$ ノ側ヨリ $y < 0$ ノ側ニ流入スル水流ヲ示ス而シテ其流線ハ凡テ雙曲線狀ヲナシ等位線(Equi-potential Line)ハ凡テ橢圓ヲナス任意ナル點ノ速度ハ

$$-\frac{dz}{dw} = -c \sinh w = -\frac{c}{2}(e^w - e^{-w})$$

$\varphi = \pm \infty$ ニテ $- \frac{\partial z}{\partial w} = \pm \infty$ 故ニ速度ハ零トナル缺口ニ於ケル速度ハ凡テ y 軸ニ平行トナルコレ⁽²¹⁾ニ於テ $\varphi = 0$ ト
スルトキ實值 (Real value) 消滅スルニヨリ明カナリ此流線ノ一般ノ景況ハ別紙附圖第二ニアリ (此節及前節ニ關シテ
、Lamb: Hyd. chap. 4 ム參照)

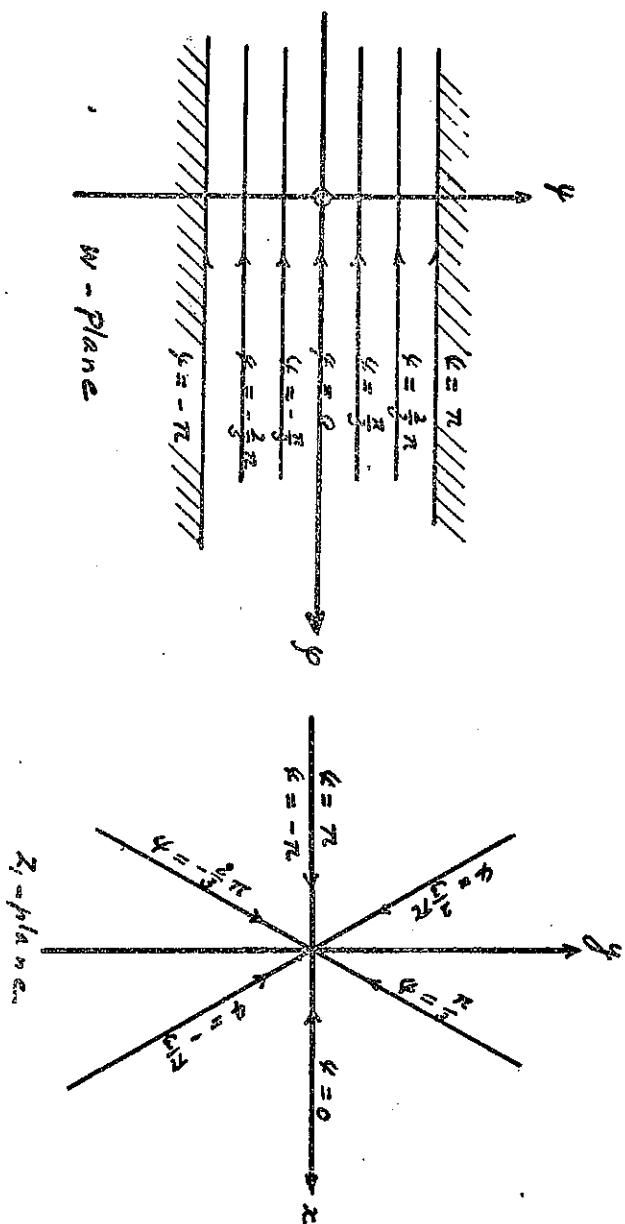
四 任意ナル角度ヲナスニ隔壁ノ流線式

任意ナル角度ヲナスニ隔壁ノ交點ノ附近ヲ缺口トシコレヲ通ジテ起ル水流ノ流線ヲ求ムルニ著者ハ函數論ノ基本定理タル等角投影 (Isogonale Verwandschaften) ノ方法ヲ用ヒル

直角軸ニモツ平面ニ於テ φ 軸ニ平行ニシテ反對ノ方向ヲ有スル 一々 IIA IIB IIA IIB ナル流線ニヨリテ充タサレタル

ナル關係ニヨリ α γ β 直角軸トスル平面ニ投射スル時ハ流線一々 α β γ $\alpha + \beta + \gamma$ ハ無限大ノ距離ヨリ來ツテ原點ニ向ツテ集中スル放射狀ノ完全平面 (Complete plane) ヲナスコノ平面ヲ今 α β γ $\alpha + \beta + \gamma$ 名付ケル

第五節



次ニニツノ隔壁ノナス角ヲトシムラ
ヨリテナル角ニテ表ハサル、部分平面ニ縮ムル爲メニ次ノ如キ投射ヲナス

$$z_1 = z_2 \frac{\pi}{2\pi - \theta}$$

$$\frac{\theta - 2\pi}{2\pi} = \alpha_0$$

$$\hat{\psi}_j = e^{\frac{2\pi i}{n} j \theta}$$

論 説 報 告 水路ノ呑口及ビ吐口ニ於ケル水流特ニ河口ノ水流ニ就イテ

論 說 報 告 水路ノ呑口及ビ吐口ニ於ケル水流特ニ河口ノ水流ニ就イテ

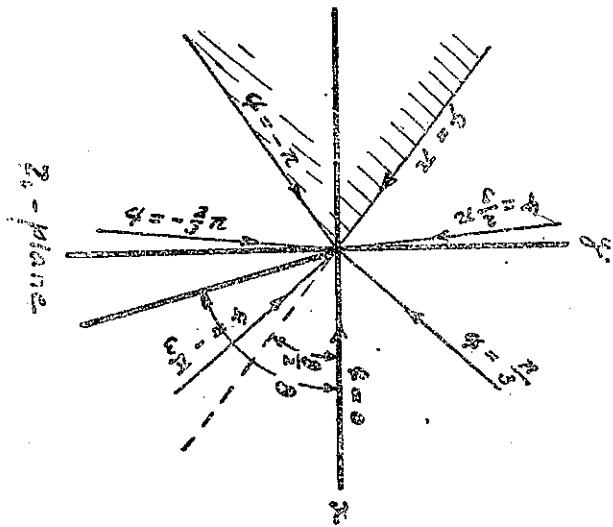
平面ノ圖ニ於テ陰影ヲ施セル部分ハ取除カル

又原點ヲ起點トシテ限リナク四方ニ流出スル流線ハ η_1 の逆函數ヲ以テ表ハシ得即

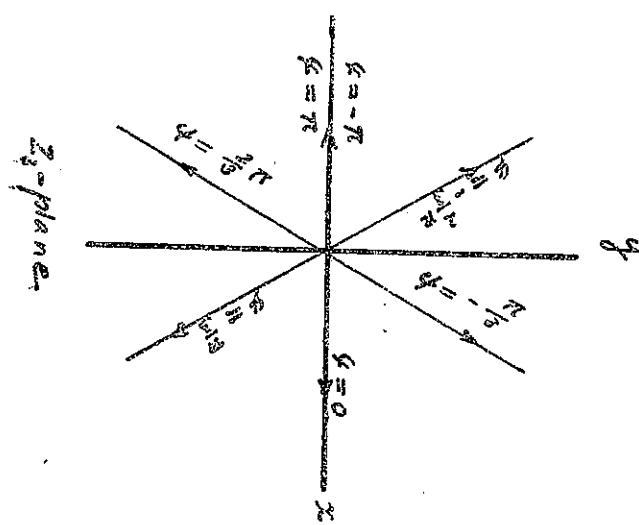
21

此場合ノ正負ノ位置ト相反スルコトヲ注意スルヲ要スニ w ノ値ヲ入レテ

第六圖

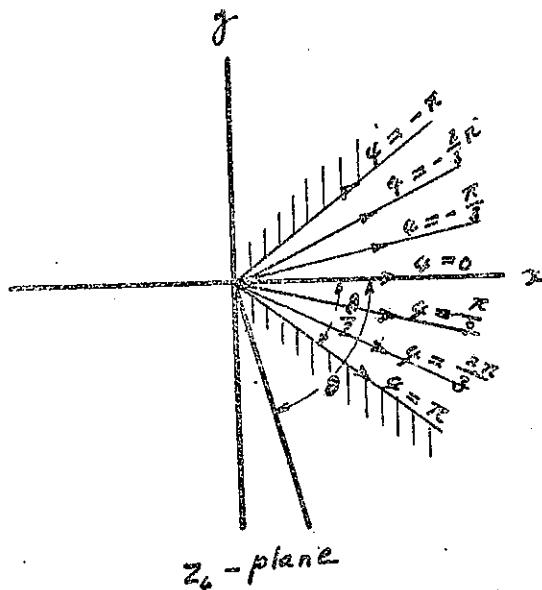


第七回



次ニ之ヲ角 θ ノ間ニ狹マレタル部分平面ニ縮メル爲メニ次ノ如キ投射ヲナス

$$z_3 = \frac{z_4}{\theta}$$



第 八 圖
投影入ハトメア適宜ニ結合シテ周界條件ヲ満足セシムレバ
Theorie der isogonalen Verwandtschaften und der Conformen
Abbildungen (ヲ參照) ハトメア已ニ我々ノ場合ニ對スル要素ヲ有スルヲ以テ此ノ以上此要素ノ性質ヲ變更スル投影ヲ行
ハズシテ單ニ此兩者ヲ加算スレバヨイ即ハトメアトノ結合ハ直
線的ナルベシ最モ一般的ナル一次式ヲ以テ表ハセバ

$$= A_{2_2} + B_{2_4} + C \quad \dots \quad (26)$$

此處ニ $A B C$ ハ境界條件ニヨリテ決定サルベキ復常數 (Complex constants.)

$$z = Ae^{\frac{2\pi - \theta}{2\pi}w} + Be^{-\frac{\theta}{2\pi}} + C$$

簡單人爲二

ト置ケ
二三

$$A = ae^{\alpha i}, \quad B = be^{\beta i}, \quad C = ce^{\gamma i}$$

論說報告 水路ノ呑口及ビ吐口ニ於ケル水流特ニ河口ノ水流ニ就イテ

一六

但 $a, b, c, \alpha, \beta, r$, 實常數

次ニ此式ニ充タスベキ周界條件ヲ導クニ先ダチ次ノ如キ簡単ナル場合ヲ考フ

(3g) ... (3d) ... (3c) ... (3b) ... (3a) ...

此式ニ於テ θ_1 及 θ_2 ヲ 0° 及 180° ハ α = 制限スルトキハ第九圖ノ如キ場合トナル即流線ノ狀況ハヤ、吾々ノ目的ニ近ク其對稱軸ハ α 軸ニ對シテ $-\frac{\theta}{2}$ ノ角ヲモツ

我々の場合即(29)

一方ノ隔壁ノ先端ニ置キ流線ノ對稱軸ハ之レヲ α 軸ニ平行ナラシ
メントスル此レヲ(30)ト對比セシメルトキハ(30)ノ全組織ヲ先ヅ $+\frac{\theta}{2}$
ナル角丈回轉スルヲ要ス夫レ故ニ(29)ノ z_2 及 z_4 ノ係數ハ $e^{\frac{i\pi}{2}}$ 又ハ
 $e^{i\pi i}$ ナル共通值ヲモツ即(29)ニテ $\alpha = \beta = k\pi$

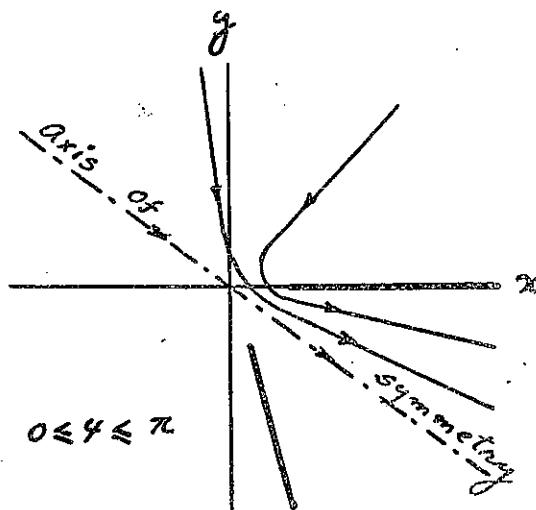
$$z = e^{k\pi i} \{ae^{kw} + be^{-kw}\} + C \quad \dots \quad (31)$$

$$z = e^{inx} \{ae^{kxw} + be^{-kxw}\} + C \dots \dots \dots \dots \dots \dots \quad (31)$$

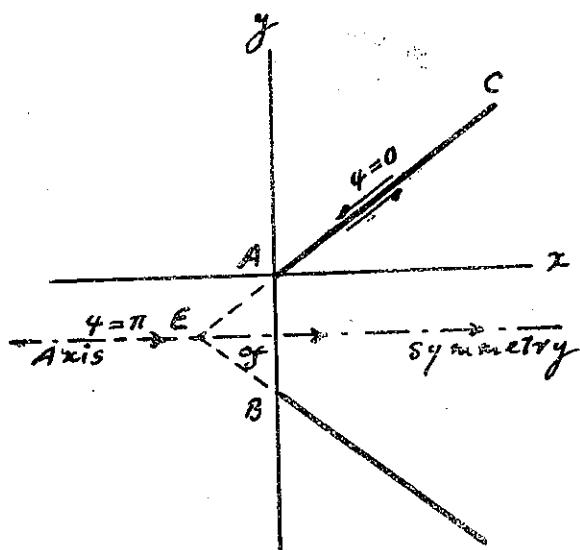
此ニ a/b ハ實常數 C ハ復常數ニテ a/b ハ單ニ大サヲ表ハシ O ハ全組織ノ直動 (Translation) ヲ示ス

第(31)ニ於テ速度ノ逆數ヲ求ムルトキハ

第十圖 $A \left(\begin{smallmatrix} \infty & 0 \\ 0 & 0 \end{smallmatrix} \right)$ = 於ケル速度ハ無限大トナルベキニヨリ



第



圖

A は原點トベル故ニ

$$(z)_x = ae^{k\pi i} \left\{ 1 + \frac{k'}{k} \right\} + C = 0$$

第

$$\therefore C = -\frac{1}{k} ae^{k\pi i}$$

$$\therefore z = ae^{k\pi i} \left\{ e^{kw} + \frac{k'}{k} e^{-kw} - \frac{1}{k} \right\} \dots \dots \dots \dots \dots \dots \quad (34)$$

但 a と w は無関係リシテ k の函数(35) ヨリ對稱軸ニ當ル流線 $\psi = \pi$ ラズミテ表ハセ

$$\begin{cases} x = a \left\{ -e^{k\pi i} + \frac{k'}{k} e^{-k\pi i} - \frac{1}{k} \cos k\pi \right\} \\ y = a \left\{ -\frac{1}{k} \sin k\pi \right\} \end{cases}$$

故ニヨノ流線ハ y 値ニ係ラズ一定ノ x 値ヲモツ而シテ此値ハ單ニヨリテ變化スル今吾人ハ呑口又ハ吐口ノ缺口ノ幅員ヲニシテ隔壁ノ角度ニ無關係ニ一定ナハシノトベバ此場合リ

$$\text{Opening width} = 2y = -\frac{2a}{k} \sin k\pi = -c \quad (\text{say})$$

$$\left| -\frac{dz}{dw} \right|_{\psi=0} = \left| -e^{k\pi i} \{ k'a - kb \} \right| = 0$$

$$\therefore k'a = kb \quad \dots \quad (33)$$

$$\therefore z = ae^{k\pi i} \left\{ e^{kw} + \frac{k'}{k} e^{-kw} \right\} + C \quad \dots \dots \dots \dots \dots \dots \quad (34)$$

此値ヲ(35)挿入スルトキハ

此レ吾人ノ求ムル任意ノ角度 θ ヲナスニ隔壁ヲナシ其交點附近ニ於テ幅員 c ヲ缺口トスル水流ノ流線ノ示ス式デアル但シ $k = \frac{\theta}{2\pi}$, $k' = 1 - k$, α 及 β ハ共ニ復素變數ヲ以テ表ハシタ值デアル

(37) ヲ²⁰ニ就イテ微分シ符號ヲ變ズレバ

$$-\frac{dz}{dw} = -\frac{kk'ce^{k\pi i}}{2 \sin k\pi} \left\{ e^{kw} - e^{-kw} \right\}$$

又ハヲ及ニテ表ハシテ

$$-\frac{dz}{dw} = -\frac{\hbar k c}{2 \sin \hbar \pi} \left[e^{k w} \cos(k \psi + \hbar \pi) - e^{-k w} \cos(-k \psi + \hbar \pi) + i(e^{k w} \sin k' \varphi + \hbar \pi) - e^{-k w} \sin(-k \psi + \hbar \pi) \right]$$

此絕對值ハ(11)(12)ニヨリ速度ノ絕對值ノ逆數ヲ與ヘ此ノ微角ハ速度ノ方向ヲ與ヘル

$$\left| -\frac{dz}{d\nu} \right| = \frac{\hbar k' c}{2 \sin h \pi} \sqrt{\left\{ e^{i k' q} (k' \psi + h \pi) - e^{-i k' q} \cos(-k' \psi + h \pi) \right\}^2 + \left\{ e^{i k' q} \sin(k' \psi + h \pi) - e^{-i k' q} \sin(-k' \psi + h \pi) \right\}^2}$$

$$= \frac{k' k c}{2 \sin k \pi} \sqrt{e^{i k' \varphi} + e^{-i k \varphi} - 2 e^{i (k'-k) \varphi} \cos(k'+k)} \psi = \frac{k' k c}{2 \sin k \pi} \sqrt{e^{i k' \varphi} + e^{-i k \varphi} - 2 e^{i (k'-k) \varphi} \cos \psi}, \quad k'+k=1$$

$$\theta = \cos^{-1} \left[\left\{ e^{ik\psi} \cos(k'\psi + k\pi) - e^{-ik\psi} \cos(-k\psi + k\pi) \right\} \times \frac{k'k^c}{2 \sin k\pi} \sqrt{e^{2ik\psi} + e^{-2ik\psi} - 2e^{(c'-k)\psi} \cos \psi} \right] \quad \dots \quad (39)$$

次の缺口より流出する流量を計算すれば、速度 c は如き積分によって得られる。

$$\left| \frac{Q}{2} \right| = \int \left| \begin{array}{l} \psi=\pi \\ \psi=0 \end{array} \right| |V| dz = \int \left| -\frac{dw}{dz} \right| |dz| = \int |dw|$$

$$dw = \varphi + i\psi, \quad d\psi = d(\varphi + i\psi) = d\varphi + i d\psi$$

$$|dw| = \sqrt{\overline{d\varphi^2} + \overline{d\psi^2}}$$

$$\varphi = c_1, \quad \text{Const}; \quad d\varphi = 0$$

$$\therefore |dw| = d\psi$$

$$\left| \frac{Q}{2} \right| = \int_{\psi=0}^{\psi=\pi} d\psi = \pi$$

$$|Q| = 2\pi$$

特別ナル場合 計算

$$k=0, \quad k'=1$$

$$z_0 = \lim_{\substack{k \rightarrow 0 \\ k' \rightarrow 1}} \frac{kce^{k\pi i}}{2 \sin k\pi} \cdot \left\{ e^{kw} + \frac{k'}{k} e^{-kw} - \frac{1}{k} \right\} = \lim_{\substack{k \rightarrow 0 \\ k' \rightarrow 1}} \frac{ce^{k\pi i}}{2 \sin k\pi} \left\{ ke^{kw} + k' e^{-kw} - 1 \right\}$$

此の情形 (Indeterminate form) の結果 (Evaluate) は次の如くである。

$$\text{分子 } N = ce^{k\pi i} \{ ke^{(1-k)w} + (1-k)e^{-kw} - 1 \}$$

$$\frac{dN}{dk} = ce^{k\pi i} \{ ke^{(1-k)w} + (1-k)e^{-kw} - 1 \} + ce^{k\pi i} \{ e^{(1-k)w} - ke^{(1-k)w} - e^{-kw} - w(1-k)e^{-kw} \}$$

$$\lim_{k \rightarrow 0} \frac{dN}{dk} = c \{ e^w - w - 1 \}$$

$$\text{分母 } D = 2 \sin k\pi$$

$$\lim_{k \rightarrow 0} \frac{dD}{dk} = \lim_{k \rightarrow 0} 2\pi \cos k\pi = 2\pi$$

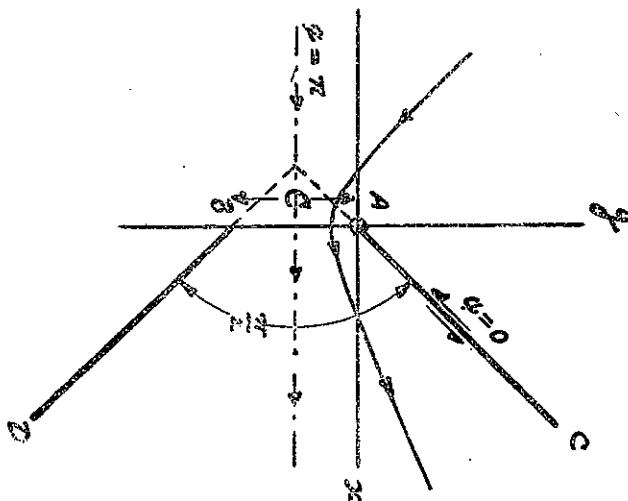
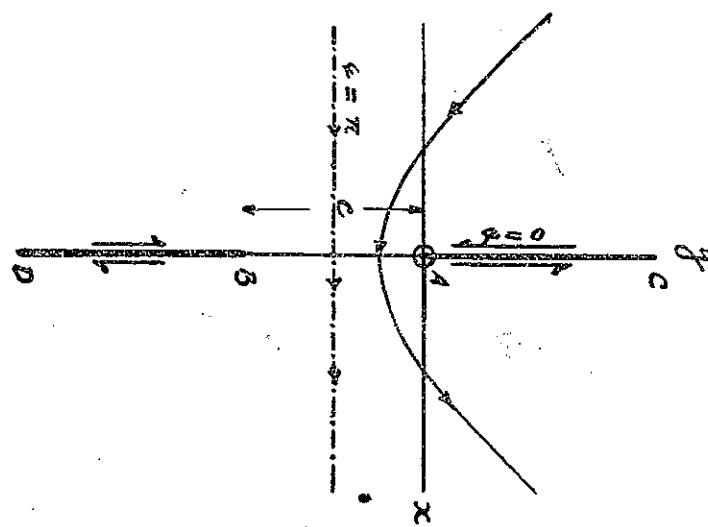
此レ \equiv Iニ詳述セル場合ニ一致ス何トナレバ γ 軸ヲ境目トシテ全組織ヲ折返シ \Rightarrow ○ヲ對稱軸ニ沿フ流線 \Rightarrow II γ ヲ兩壁ニ沿フ流線トシ \Rightarrow 2 π ニ等シクトリ且原點ヲ對稱軸上 \rightarrow ノ點ニ移ストキハ全ク \equiv Iノ場合ト同一ノモノトナル（別紙附圖
第一參照）

圖 特別ナル場合 其二

$$k = k' = \frac{1}{2}$$

$$+\frac{c_1}{4} \left\{ e^{\frac{w}{2}} + e^{-\frac{w}{2}} - 2 \right\} \dots \dots \dots \dots \dots \dots \dots \dots \quad (41)$$

此レ **三** **II** ニ解述セル場合ニ一致ス何トナレバ $c_2 c_3 = w_2 w_3$ ニト
リ實軸 c_2 ト虛軸 w_2 トヲ交換シ然ル後原點ヲ實軸ニソヒテ $-c_2$ 丈
移動セシムレバ (41) ハ全ク (18) ト一致セルコト第十二圖(次頁)ノ如シ
尙此場合ニ於ケル流線ノ一般景況ハ別紙附圖第二ニアリ



特別ナル場合

$$k = \frac{1}{4}, \quad k' = \frac{3}{4}$$

此レニ隔壁ノ夾角 $\theta = 2\pi k = \frac{\pi}{2}$ ノ場合ニ於ケル流線式デアル(第十三圖參照)尙此場合ニ於ケル流線ノ一般景況ハ別紙附圖第三ニ示ス如シ

附記 らむ動水力学一九一六年版ヲ見ルニ其七五頁ニ著者ノ此處ニ誘導シタル公式ト類似ノ式見エタリ即

$$z = \frac{1-n}{n} (1-e^{-nw}) + e^{(1-n)w}, \quad \text{但 } n = \frac{\theta}{2\pi}$$

又同書ノ脚註ノ示ス所ニヨハスクノ如キ公式ハ一九〇〇—一九〇一ノ數學年報(Annals of Mathematics)ニぱりす(Harris)ナル米人ニヨリテ既ニ解決サレタルモノアリト即此レヲ見ルリ

$$z = \frac{\varepsilon^e (1-\varepsilon)^{1-e}}{\sin \varepsilon \pi} \left\{ e^{(1-\varepsilon)w} - e^{-\varepsilon w} \right\}$$

但 $\varepsilon = \text{any real pos. quantity varying from 0 to } \frac{1}{2}$.

トアリ此等何レモ多少ノ變換ヲナサバ著者ノ⁽³⁷⁾式ト一致スベク不幸ニシテ著者ノ所有スルらむ動水力学書ハ一九〇六年版ナリシ爲斯クノ如キ貴重ナル先賢ノ作アルヲ知ラズ此ニ獨立ニ⁽³⁸⁾式ヲ導出セル次第デアル尤モ前記ニ書ニアルモノハ其公式ハ突然ニ與ヘラレ何等導出ノ順序ニツイテノ説明ナク缺口ノ幅員ヲ一定ニシテソノ隔壁ノ角度ノ變化ニヨル水流ノ模様ノ變化ヲ考ヘヤウツル場合等ニ應用スルニハ不便ノ感ガアル其他連續式ヲ果シテ満足スルヤ否ヤノ吟味ヲ缺ク等不備ノ點モ見ラレルノテ著者ノ公式誘導モ全々徒勞デハアルマイト信ズル

五 IIIフノ代表的流線式ニ就イテノ詳論

前節ニ於テ導出シタル公式⁽³⁷⁾⁽³⁸⁾ヲ用ヒテ任意ナル角度ヲ爲スニ隔壁ノ流線及流速ヲ知ルコトヲ得ル次第ナルガ先ニ述べタル如ク隔壁ノナス角度ト水流トノ關係ヲ明カニスル爲メニ著者ハ先ニアグタルニツノ代表的ノ場合⁽⁴⁰⁾⁽⁴¹⁾⁽⁴²⁾ニ就イテ更ニ詳論シヤウト思フ

今計算ヲ簡単ニスル爲ニ $c = 2\pi$ 即缺口幅ヲ 2π ニトルトキハ前記三式ハ次ノ如クナル

此等ノ式ニヨリムトゾトノ關係換言スレバ速位ト x ヨトノ關係ヲ[[シノ場合ニ就イテ比較スル事ヲ得此等速位線ノ一般

最モ重大ナルハ對稱線(中心線)ニ沿ヘル流線ナルヲ以テ先ヅ之ニ就イテ比較スルトキハ次ノ如クナル(40')ニテ
ト置ケバ

$$x_0 + iy_0 = e^{\pi i} e^{i\varphi} - (\varphi + i\pi) - 1$$

實部分及虛部分ヲ分ツトキハ

同様ニ(41')ニシテ置ケバ

$$x_1 + i y_1 = \frac{e^{\frac{x_2}{2} + \frac{\pi}{4}} + e^{-\frac{x_2}{2} - \frac{\pi}{4}} - 2}{2}$$

實部分及虛部分ヲ分ツトキハ

論 説 報 告 水路ノ呑口及ビ吐口ニ於ケル水流特ニ河口ノ水流ニ就イテ

二四

$$\text{同様} \quad (42') \Rightarrow \frac{x_1 + iy_1}{4} = \frac{\sqrt{2}\pi}{4} \left\{ e^{\frac{3\pi i}{4}} e^{xt} + 3e^{-\frac{\pi i}{4}} - 4e^{\frac{\pi i}{2}} \right\}$$

$$x_1 = \frac{\sqrt{2}}{4} \pi \left\{ -e^{\frac{3i}{4}\rho} + 3e^{-\frac{i}{4}\rho} - \frac{4}{\sqrt{2}} \right\} \quad (191)$$

$$x \mapsto \mathbb{F}_\beta$$

此等ヲ一覽スルトキ γ ノ値ハ凡テ一ノナルヲ知ル今 γ ノ値ヲ種々ナル γ ノ値ニ對シテ求ムルトキハ次表ニ示ス如シ但 γ ノ原點ヲ隔壁ノ尖端ヲ結ベル中心點ニトル(第一表參照)

第三編 第一章

x_0	x_1	x_2	x_3	x_4
∞	$-\infty$	$-\infty$	$-\infty$	$-\infty$
8.0	—	—	—	—
6.4	—	—	—	—
5.6	—	—	—	—
4.0	-58.60	-11.40	-24.26	-137.41
3.2	-26.73	-7.46	-13.90	-76.39
2.4	-12.42	-4.74	-8.04	-
1.6	-5.55	-2.79	-4.60	-
0.8	-2.03	-1.29	-2.44	-
0.0	-2.00	-0.00	-0.92	-
-0.8	-0.65	+1.29	+0.32	-
-1.6	+0.40	+2.79	+1.50	-
-2.4	+1.31	+4.74	+2.75	-
-3.2	+2.16	+7.46	+4.18	-
-4.0	+2.98	+11.40	+5.87	-
—	+53.74	+10.34	+10.34	-

次ニ隔壁ニ沿フ流線ハ前ニ述ベタル如ク實際ニ用ラナサルモノナレドモ一ツノ極端ヲ示ス標準トナルベキニヨリコヽニ計算スル(40)(41)(42)ヨリ $\delta = 0$ ト置ケバ次ノ二組ノ式ヲ得

(40°)ニ於テハ γ ハ零即壁ハ x 軸ニ合シ(41°)ニ於テハ x ハ零即壁ハ γ 軸ト合スル(42°)ニ於テハ x γ ノ値常ニ等シク
壁ハ坐標軸ト四十五度ノ角ヲナス今コノ壁ニ沿フテ γ ノ値ヲ計算スルトキハ第二表ノ如シ但壁ノ尖端ヲ原點トスル

第二表

φ	x_0	ψ	$\frac{y_1}{2}$	ψ	$\sqrt{\frac{x_1^2 + y_1^2}{2}}$	$\sqrt{\frac{x_1^2 + y_1^2}{2}} = \sqrt{2x_1}$
$+\infty$	$+\infty$	$+\infty$	$+\infty$	$+\infty$	$+\infty$	$+\infty$
5	142.41	9.2	153.20	6.4	131.20	
4	49.60	8.0	82.70	4.0	19.11	
3	16.09	6.0	28.50	3.2	9.30	
2	4.40	4.0	8.68	2.4	4.11	
1	0.72	2.0	1.71	1.6	1.48	
0	0.00	1.2	0.58	0.8	0.31	
-1	0.37	0.4	0.06	0.0	0.0	
-2	1.13	0.0	-0.8	0.23		

x_0	$y_{\frac{1}{2}}$	φ	$\sqrt{\frac{x_0^2+y_0^2}{4}} = \sqrt{2x_0}$
+ 2.05	- 1.6	- 1.6	- 4.0
+ 3.02	+ 0.86	+ 0.86	+ 4.67
+ 4.01	+ 1.80	+ 1.80	-
+ ∞	+ 3.08	+ 3.08	-

次ニ對稱線ト隔壁トノ中間ニ位スル $\varphi = \frac{\pi}{2}$ ニ沿フ流線ヲ計算スルニ (40') (41') (42'') マリ次ノ三組ノ式ヲ得

$$w_1 = -\frac{\pi}{2\sqrt{2}} \left(e^{\frac{\varphi}{2}} - e^{-\frac{\varphi}{2}} \right), \quad y_1 = \frac{\pi}{2} \left\{ \frac{1}{\sqrt{2}} \left(e^{\frac{\varphi}{2}} + e^{-\frac{\varphi}{2}} \right) - 2 \right\}, \quad \dots \quad (41v)$$

$$x_4 = \frac{\sqrt{2\pi}}{4} \left(-e^{\frac{i\pi}{4}} \sin \frac{\pi}{8} + 3e^{-\frac{i\pi}{4}} \cos \frac{\pi}{8} - \frac{\sqrt{2}}{2} \right)$$

$$y_4 = \frac{\sqrt{2}\pi}{4} \left(e^{\frac{i\pi}{4}\rho} \cos \frac{\pi}{8} + 3e^{-\frac{i\pi}{4}\rho} \sin \frac{\pi}{8} - \frac{4}{\sqrt{2}} \right)$$

$$(40^\circ) \text{ 關於 } \tau \text{ 吐口} (\text{吞口}) \text{ 關於 } \tau \quad \therefore x_0 = 0 \quad \therefore \varphi = -1 \quad \therefore y_0 = e^{-1} - \frac{\pi}{2} = -1.203$$

$$dx_0 = -d\varphi, \quad dy_0 = e^\varphi d\varphi$$

$$\therefore ds_0 = -\sqrt{\frac{dx_0}{x_0^2} + \frac{dy_0}{y_0^2}} = -(1+e^{2\varphi})^{\frac{1}{2}} d\varphi$$

s_i ト ψ トノ增加ノ方向相反スルヲ以テ平方根ノ負號ヲトル之ヲ積分スルトキ

$$\delta_3 = -\sqrt{1+e^{2\rho}} + \frac{1}{2}\log\frac{\sqrt{1+e^{2\rho}}+1}{\sqrt{1+e^{2\rho}}-1} + \text{Const}$$

今 s ヲ 計ルベキ 原點 λ 吐口(呑口)ニ トレ
スル

一六

$$\text{Const} = +\sqrt{1+e^{-2}} - \frac{1}{2} \log \frac{\sqrt{1+e^{-2}}+1}{\sqrt{1+e^{-2}}-1}$$

$$\therefore \delta_0 = -\sqrt{1+e^{2\varphi}} + \sqrt{1+e^{-2}} + \frac{1}{2} \log \frac{(\sqrt{1+e^{2\varphi}}+1)(\sqrt{1+e^{-2}}-1)}{(\sqrt{1+e^{2\varphi}}-1)(\sqrt{1+e^{-2}}+1)} \quad \dots \dots \dots \dots \dots \dots \quad (40')$$

(41') は於テ吐口(出口)へ坐標 $x_{\frac{1}{2}} = 0$, $y_{\frac{1}{2}} = 0$, $\varphi = 0$, $y_{\frac{1}{2}} = \pi \left(\frac{1}{\sqrt{2}} - 1 \right) = -0.918$

$$dx_{\frac{1}{2}} = -\frac{\pi}{4\sqrt{2}} \left(e^{\frac{\varphi}{2}} + e^{-\frac{\varphi}{2}} \right) d\varphi, \quad dy_{\frac{1}{2}} = \frac{\pi}{4\sqrt{2}} \left(e^{\frac{\varphi}{2}} - e^{-\frac{\varphi}{2}} \right) d\varphi$$

$$ds_{\frac{1}{2}} = -\frac{\pi}{4\sqrt{2}} \left[\left(e^{\frac{\varphi}{2}} + e^{-\frac{\varphi}{2}} \right)^2 + \left(e^{\frac{\varphi}{2}} - e^{-\frac{\varphi}{2}} \right)^2 \right]^{\frac{1}{2}} d\varphi = -\frac{\pi}{4} (e^{\varphi} + e^{-\varphi})^{\frac{1}{2}} d\varphi = -\frac{\pi}{4} e^{\frac{\varphi}{2}} (1+e^{-2\varphi})^{\frac{1}{2}} d\varphi$$

此式ヲ積分スル事ハ困難ナシ縦テ節入ハシマリハ近似法ヲ用ハル是此式ノ右ハ値ノ局限ナハリ極定理ニヨリ展開スルニヤハ

$$ds_{\frac{1}{2}} = -\frac{\pi}{4} e^{\frac{\varphi}{2}} \left(1 + \frac{1}{2} e^{-2\varphi} - \frac{1}{8} e^{-4\varphi} + \frac{1}{16} e^{-6\varphi} - \dots \dots \right) d\varphi = -\frac{\pi}{4} \left(e^{\frac{\varphi}{2}} + \frac{1}{2} e^{-\frac{5\varphi}{2}} - \frac{1}{8} e^{-\frac{7\varphi}{2}} + \frac{1}{16} e^{-\frac{11\varphi}{2}} - \dots \dots \right) d\varphi$$

ハシマリ原點 $\varphi = 0$ は $\varphi = \varphi$ ハ積分スルニヤハ

$$\left. \int_{\varphi=0}^{\varphi>0} ds_{\frac{1}{2}} \right|_{\varphi=0} \approx -\frac{\pi}{4} \left[2e^{\frac{\varphi}{2}} - \frac{1}{3} e^{-\frac{3\varphi}{2}} + \frac{1}{28} e^{-\frac{7\varphi}{2}} \right]_{\varphi=0}^{\varphi} \quad \text{for } \varphi > 0 \quad \dots \quad (41')$$

$\varphi < 0$ リ翻シテハ對稱值ヲ用ヘシ事ハ得シヨリヨリ重ねテ計算ノ要無キ體ノトメ

(42') は於テ吐口(入口)へ坐標 $x_{\frac{1}{4}} = 0$

$$\therefore -\sin \frac{\pi}{8} e^{\frac{3\varphi}{4}} + 3e^{-\frac{\varphi}{4}} \cos \frac{\pi}{8} - \frac{4}{\sqrt{2}} = 0$$

電説解書 水路、河口及川口に於ける水流动の河口、水端、潮汐

118

$$\therefore e^{\varphi} + 7.38 e^{\frac{\varphi}{4}} - 7.24 = 0$$

$$\therefore \varphi \approx -0.5$$

$$\therefore y_1 = \frac{\sqrt{2}}{4} \pi \left\{ 0.685 \times 0.924 + 3 \times 1.133 \times 383 - \frac{4}{1.414} \right\} = -1.0$$

$$ds_1 = \frac{3\sqrt{2}}{4 \times 4} \pi \left\{ -\sin \frac{\pi}{8} e^{\frac{3}{4}\varphi} - \cos \frac{\pi}{8} e^{-\frac{\varphi}{4}} \right\} d\varphi$$

$$dy_1 = \frac{3\sqrt{2}}{4 \times 4} \pi \left\{ \cos \frac{\pi}{8} e^{\frac{3}{4}\varphi} - \sin \frac{\pi}{8} e^{-\frac{\varphi}{4}} \right\} d\varphi$$

$$ds_1 = -\frac{3\sqrt{2}}{4 \times 4} \pi \left\{ \sin^2 \frac{\pi}{8} e^{\frac{3}{2}\varphi} + \cos^2 \frac{\pi}{8} e^{-\frac{5}{2}\varphi} + 2 \sin \frac{\pi}{8} \cos \frac{\pi}{8} e^{\frac{1}{2}\varphi} + \cos^2 \frac{\pi}{8} e^{\frac{5}{2}\varphi} + \sin^2 \frac{\pi}{8} e^{-\frac{3}{2}\varphi} - 2 \sin \frac{\pi}{8} \cos \frac{\pi}{8} e^{\frac{9}{2}\varphi} \right\}^{\frac{1}{2}} d\varphi$$

$$= -\frac{3\sqrt{2}}{4 \times 4} \left(e^{\frac{3}{2}\varphi} + e^{-\frac{9}{2}\varphi} \right)^{\frac{1}{2}} d\varphi$$

此積分の因数十倍し前回様に方程式より近似値を求めて我慢

$$ds_1 = -\frac{3\sqrt{2}}{4 \times 4} \pi e^{\frac{3}{4}\varphi} (1 + e^{-2\varphi})^{\frac{1}{2}} d\varphi \quad \text{for } \varphi > 0$$

$$ds_1 = -\frac{3\sqrt{2}}{4 \times 4} \pi e^{\frac{3}{4}\varphi} \left(1 + \frac{1}{2} e^{-2\varphi} - \frac{1}{8} e^{-4\varphi} + \frac{1}{16} e^{-6\varphi} - \dots \right) d\varphi = -\frac{3\sqrt{2}}{4 \times 4} \left(e^{\frac{3}{4}\varphi} + \frac{1}{2} e^{-\frac{5}{4}\varphi} - \frac{1}{8} e^{-\frac{13}{4}\varphi} + \dots \right) d\varphi$$

$$\left. \frac{3}{4} \right|_{\varphi=0}^{\varphi>0} \approx -\frac{3\sqrt{2}}{4 \times 4} \pi \left[\frac{4}{3} e^{\frac{3}{4}\varphi} - \frac{4}{10} e^{-\frac{5}{4}\varphi} + \frac{1}{26} e^{-\frac{13}{4}\varphi} \right]_{\varphi=0}^{\varphi>0} \quad \text{for } \varphi > 0$$

$$ds_1 = -\frac{3\sqrt{2}}{4 \times 4} \pi e^{-\frac{5}{4}\varphi} (1 + e^{2\varphi})^{\frac{1}{2}} d\varphi \quad \text{for } \varphi < 0$$

$$\left. \begin{aligned}
 &= -\frac{3\sqrt{2}}{4 \times 4} \pi e^{\frac{\varphi}{4}} \left(1 + \frac{1}{2} e^{i\varphi} - \frac{1}{8} e^{i\varphi} + \frac{1}{16} e^{i\varphi} - \dots \right) d\varphi \\
 &= -\frac{3\sqrt{2}}{4 \times 4} \pi \left(e^{-\frac{\varphi}{4}} + \frac{1}{2} e^{\frac{7}{4}\varphi} - \frac{1}{8} e^{\frac{15}{4}\varphi} + \frac{1}{16} e^{\frac{23}{4}\varphi} - \dots \right) d\varphi \\
 &\quad \left. \begin{aligned}
 s_{\frac{1}{4}} \Big|_{\varphi=-0.5}^{\varphi<0} &\approx -\frac{3\sqrt{2}}{4 \times 4} \pi \left[-4e^{-\frac{\varphi}{4}} + \frac{2}{7} e^{\frac{7}{4}\varphi} - \frac{1}{30} e^{\frac{15}{4}\varphi} + \frac{1}{92} e^{\frac{23}{4}\varphi} \right] \Big|_{\varphi=-0.5}^{\varphi<0} \quad \text{for } \varphi < 0
 \end{aligned} \right\} \dots \dots \dots \dots \dots \dots \quad (42v)
 \end{aligned} \right.$$

此等ノ値ヲ吐口(右口)ノ起點ニベシ事ニ注意シカヘシ算ハシ上サバ第4表ニ示ス様ナ値ヲ得但起點ヨリ左方ニ計タル
 s_0 ノ値ヲ負右方ニ計タルヤハト出テバ

第 三 表 $(\psi = \frac{\pi}{2})$

φ	s_0	φ	$s_{\frac{1}{4}}$	φ	$s_{\frac{1}{4}}$
$+\infty$	$-\infty$	$+\infty$	$-\infty$	$+\infty$	$-\infty$
3	-20.714	6	-30.25	4	-22.23
2	-7.98	4	-10.28	3	-10.45
1	-3.20	2	-2.935	2	-4.85
0	-1.197	1.2	-1.105	1	-2.24
-1	0.000	0	0.000	0	-0.68
-2	+ 0.977	-0.5	0.00	0.00	
-3	+ 1.974	-1	+ 0.415	+ 1.835	
-6	$+\infty$	-2	+ 3.405	+ 3.405	
		-3			
		$-\infty$			

$-\varphi = \text{對シテハ對}$
 權値ヲトル。

以上三表ニヨリテ一の圓表ヲ作ルトキ別紙附圖第四ノ如クナル

次ニ各點ニ於ケル速度ヲ比較スルリハ公式⁽³⁾ニヨリ一般ニ速度ノ絶對值ヲ與ケラシムノ代表的ノ場合リハ $b = 0$,

940

$k' = 1$; $k = k' = \frac{1}{2}$; $k = \frac{1}{4}$, $k'' = \frac{3}{4}$ ム置キ不定値ヲ生ズルトキバ此ノア評値スレバヨイ面シテ中心線ニ沿ヘルモ
ノハスクノ如クシテ得タルモヘリ $\varphi = \pi$ ト置ケバ可ナリ又ハ $(40'')$ $(41'')$ $(42'')$ ョウ

$$|P_{\frac{1}{2}}| = \left| -\frac{1}{\frac{\partial x_1^1}{\partial \phi}} \right|_{\phi=\pi} = \left| -\frac{1}{\frac{\partial x_1^1}{\partial \phi}} \right|_{\phi=\pi} = \frac{\pi}{4} \left(e^{\frac{3\phi}{4}} + e^{-\frac{3\phi}{4}} \right) \quad \dots \quad (44)$$

但例ノ如ク添字 (Suffix) ハ隔壁ノナス角度ヲ示スベキ係數 k ノ値トスル此等ノ値ヲ計算シテ表ニ示シタルモノガ第四表デアル

第四表

φ	v_0	φ	$v_{\frac{1}{2}}$	ψ	$v_{\frac{1}{4}}$
∞	0.000	∞	0.000	∞	0.000
4.8	0.008	9.2	0.013	6.4	0.010
4.6	0.010	8.0	0.024	5.6	0.018
4.0	0.018	6.4	0.052	4.0	0.059
3.2	0.039	5.6	0.077	3.2	0.105
2.4	0.083	4.0	0.169	2.4	0.182
1.6	0.168	3.2	0.247	1.6	0.302
0.8	0.310	2.4	0.352	0.8	0.456

0.0	0.500	1.6	0.495	0.0	0.602
-0.8	0.692	0.8	0.590	-0.8	0.678
-1.6	0.832	0.0	0.637	-1.6	0.670
-2.4	0.917	$-\varphi = \text{對シテハ凡}$	-2.4	0.694	
-3.2	0.961	テ對稱值ナリ	-3.2	0.519	
-4.0	0.982		-4.0	0.440	
$-\infty$	1.000		$-\infty$	0.000	

$V_0, V_{\frac{1}{2}}, V_1 \wedge \text{最大最小値ヲ求ムヘ事ハ興味アル問題デ後ニアーチ圖表ヲ作ルトキリ簡便ナル即(43) ャシ$

$$\frac{dV_0}{d\varphi} = \frac{e^\varphi}{(1+e^\varphi)^2} = 0$$

$$e^\varphi = 0 \quad \therefore \varphi = -\infty$$

$$1+e^\varphi = \infty \quad \varphi = +\infty$$

前者ハ最大値ヲ後者ハ最小値ヲ與フ

又(44)ヨリ

$$\frac{dV_{\frac{1}{2}}}{d\varphi} = \frac{-\frac{\pi}{8}(e^{\frac{\varphi}{2}} - e^{-\frac{\varphi}{2}})}{\frac{\pi^2}{16}(e^{\frac{\varphi}{2}} + e^{-\frac{\varphi}{2}})^2} = 0$$

$$e^{\frac{\varphi}{2}} = e^{-\frac{\varphi}{2}} \quad \therefore e^\varphi = 1 \quad \text{or} \quad \varphi = 0$$

$$e^{\frac{\varphi}{2}} + e^{-\frac{\varphi}{2}} = \infty \quad \varphi = \pm\infty$$

前者ハ最大値ヲ後者ハ最小値ヲ與フ即 $x = 0$ は於テ最大値ヲセツ

又(45)ヨリ

$$\frac{dV_1}{d\varphi} = -\frac{3\sqrt{2}}{16}\pi \left(\frac{3}{4}e^{\frac{3\varphi}{4}} - \frac{1}{4}e^{-\frac{3\varphi}{4}} \right)$$

$$\frac{3}{4}e^{\frac{3\varphi}{4}} - \frac{1}{4}e^{-\frac{\varphi}{4}} = 0 \quad \therefore e^{-\varphi} = 3 \text{ or } -\varphi = \ln 3 = 1.0986 \quad \therefore \varphi \approx -1.1$$

双

前者ハ最大値ヲ後者ハ最小値ヲ與ヘル

尙此等ノ φ ノ値ヲ(43)(44)(45)式ニ入ル、事ニヨリテ

$$\max_{\vartheta} V_{\vartheta} = 1, \quad \max_{\frac{1}{2}} V_{\frac{1}{2}} = 0.636, \quad \max_{\frac{1}{4}} V_{\frac{1}{4}} = 0.680$$

トナル事ハ容易ニ知ルコトヲ得

$$\left| \begin{array}{cccc} (\overline{A}) & \cdots & \cdots & \cdots \\ \cdots & \cdots & \cdots & \cdots \\ \cdots & \cdots & \cdots & \cdots \\ \cdots & \cdots & \cdots & \cdots \end{array} \right| = \left| \begin{array}{c} \frac{\partial p}{\partial x} \\ \frac{\partial p}{\partial y} \\ \vdots \\ \frac{\partial p}{\partial z} \end{array} \right| = \left| \begin{array}{c} \frac{\partial p}{\partial x} \\ \frac{\partial p}{\partial y} \\ \vdots \\ \frac{\partial p}{\partial z} \end{array} \right| = \left| \begin{array}{c} A \\ \vdots \\ A \\ \vdots \\ A \end{array} \right|$$

次ニ隔壁ニ沿ヘル流線ニツイテ其各點ニ於ケル速度ヲ求メレバ (40'') (41'') (42'') ヨリ

卷之三

$$\frac{dz_0}{z_0} = \left(\frac{M_0}{M_0 - M_1} \right)^{\frac{1}{2}} dz$$

卷之三

$$z = \frac{z_{np}}{1 - z_{np}} = 4$$

卷之三

1

$$\frac{h + \frac{x}{z} Ap}{\frac{1}{z}} = \frac{\frac{y}{z}}{\frac{1}{z}}$$

$$\frac{d\varphi}{dt} = \frac{\omega_0}{L} \sin \theta$$

此等ノ値ヲ計算シテ表(示スレバ第五表ノ如クナル)

第 五 表 ($\psi = 0$)

v_0	φ	$v_{\frac{1}{2}}$	φ	$v_{\frac{1}{4}}$
0.000	0	0	∞	0
-0.007	9.2	0.013	6.4	0.010
-0.019	8.0	0.023	4.0	0.061
-0.052	6.0	0.063	3.2	0.114
-0.156	4.0	0.175	2.4	0.218
-0.581	2.0	0.542	1.6	0.453
-1.216	1.2	1.000	0.8	1.000
-4.520	0.4	3.160	0	∞
∞	0	∞	-0.8	1.790
-0.2	5.520	$-\varphi = \text{常数}$	-1.6	1.008
-0.6	2.215	$\varphi = \text{常数}$	-2.4	0.725
-1.0	1.582	$\varphi = \text{常数}$	-3.2	0.562
-2.0	1.155	$\varphi = \text{常数}$	-4.0	0.450
-3.0	1.055	$\varphi = \text{常数}$	-	
-4.0	1.020	$\varphi = \text{常数}$	-	
-5.0	1.005	$\varphi = \text{常数}$	-	
$-\infty$	1.000	$\varphi = \text{常数}$	-	

次ニ $\psi = \frac{\pi}{2}$ トシケル流線ノ各處ノ於ケル流速ヲ求ムヘンサヘ (40^{iv}) (41^{iv}) (42^{iv}) 云々

$$\left| V_0 \right| = \left| -\frac{1}{\frac{d\varphi_0}{d\varphi}} \right| = \left| -\frac{d\varphi}{d\varphi_0} \right| = \frac{1}{\sqrt{1+e^{2\varphi}}} \dots \quad (43^iv)$$

論 説 報 告 水路ノ各口及ビ吐口ニ於ケル水流特ニ河口ノ水流ニ就イテ

三五

此等ノ値ヲ今表示スレバ第六表ニ示ス通リデアル

第 六 表 $(\psi = \frac{\pi}{2})$

φ	v_0	φ	$v_{\frac{1}{2}}$	φ	$v_{\frac{3}{2}}$
8	0.000	8	0.000	8	0.000
3	0.050	6	0.063	4	0.060
2	0.134	4	0.172	3	0.127
1	0.345	2	0.464	2	0.267
0	0.707	1.2	0.669	1	0.533
-1	0.938	0	0.900	0	0.848
-2	0.991	-1	-0.5	-0.5	0.910
-3	1.000	-2	-1	-1	0.880
-8		-3	-2	-2	0.705
					0.563

$-\varphi = \text{對角値} \Delta \varphi$

ノ對稱値 $\Delta \varphi$

速度ヲ距離ノ函数トシテ數學的ニ求メルニハ一般的ニヤレバ(37)(38)兩式カラニテ消去スルコト、ナル一定ノ流線ニ沿フ速度ナラバコレニシガ常數ノ條件ヲ入ルレバ可ナリ然シコノ消去法ハ特別ノ場合ヲ除イテハ困難デアルカラ以上第四、第五、第六表ニ依リテゾーS 圖表ヲ描クコト、スル附圖第五ハ此レデアル此ヲ見レバ一目シテ各點ノ速度ヲ比較研究スル事ヲ得即吐口ノ極ク近クニ於テハ二隔壁ノナス角小ナルモノ程大ナル速度ヲ有スレドモ少シク吐口ヲ離ル、ニ從ヒ二隔

壁ノナス角大ナルモノ換言スレバ一直線ノ隔壁ニ缺口ヲ有スル場合ガ最モ大ナル速度ヲ有ス此レハ常識的ニ考ヘテモ又覗知シ得ルニ難クナイ何トナレバ吐口ヲ出タル流水ガ最モ早ク最モ大ナル面積ニ分布セラル、場合ハ二隔壁ノナス角ノ最小ナル場合即二ツノ平行隔壁ノ場合ニシテ一直線上ニ二隔壁ノアル場合ハ此ト相反ノ場合ナレバナリ

吐口ニ於ケル流速ハ中心線(對稱線)最小ニシテ兩隔壁ニ近ヅクニ從ツテ増大スルコトモ一ツノ注意ニ值スル現象デアル
又中心線ニ沿フ流線上ニ於テ最大速度ヲ與フベキ位置ハ前ニ述べタ如ク P_0 ノ場合ニハ+8ノ所ニアリニ隔壁ノ間ノ角
増大スルト共ニ漸次吐口(即原點)ニ近ヅキ P_0 ノ場合ニ於テ遂ニ原點ニ合スル有様モ一目瞭然デアル

尙吐口ニ於テハ中心線ニ近ヅク程小ナルベキ速度モ此レヲ少シク離レテ外側ニ出ヅレバ此レト反對ニ中心線上ノ速度最大トナル事モ重要ナル性質ノ一ツデアル。

附圖第五ニ示スモノハ三ツノ代表的流線ノ場合デアルガ此ノ中間ニ位スペキ種々ナル角度ヲ有ツ隔壁ノ場合モ挿入(IE)

六 吞口又八吐口ノ水位

通常ノ河川運河ノ如クニ水流ガ其ノ方向及断面ノ形狀大サヲ急變セザル開渠ニ於ケル平均流速ト自由水面 (Free surface) トノ關係ハダニしねすく (Boussinesq) リコシテ求メラレテキル即次ノ如シ

(Flammarion ; Hydraulique, 1909 p. 300)

但 $I = \text{自由水面勾配}$, $\chi = \text{潤邊}$, $(\alpha) = \text{斷面積}$, $U = \text{平均流速}$

$$\alpha = \text{斷面} / \text{形狀} = \vartheta \nu \text{ 或係數其平均值 } \frac{10}{9} \text{ (St. Venant)}, \quad b = \text{常數}$$

尙此式ヲ達觀スルトキハ左邊ノ I ハ重力ニヨリテ生ズル加速力 (Accelerating force) ニヨル項ニシテ右邊第一項ハ摩擦滑動ニヨリ減速力 (Retarding force) ヲ示ス項、第二項ハ流レニ沿ヒテ起ル活勢ノ變化ヲ示シ慣性力ヨリ來ル項ト考ヘル事ガ出來ル整流 (Uniform flow) ヲ於テハ此第二項ハ消失シテ

T

トナリ此レヲ書キ換ヘテ

$$U^2 = \frac{\omega}{\chi} \cdot \frac{I}{b}$$

ト置クトキハ所謂しえー (Chezy) ハ摩擦勾配式 (Friction-slope formula) ハナル

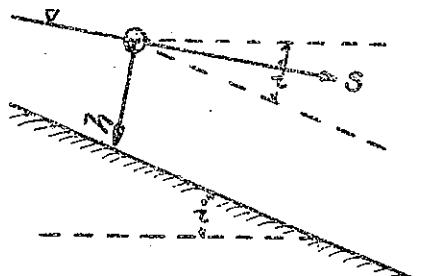
式(46)ニ於ケル I ハ圖ノ如ク。ヨリ水底面勾配 η ヲ自由水面ヨリ水底ニ向ツテ計ツタ水深ト考ヘルトキハ

$$I = i - \frac{di}{ds}$$

吾人ハ最初ニ水深ハ水路ノ何レノ部分ニ於テモ常ニ等シク此レヲムト假定スル然ルトキハ自由水面ト底面トハ到ル處完全ニ平行ナル理デアル

二

第十四圖



又 m/Z ハ前述ノ如クし $\frac{e}{Z}$ デー式ニ於ケル徑深 (Hydraulic mean depth) ニ當ル故水路
斷面矩形ニ近ク川幅水深ニ比ベテ大ナルトキハ此レハ平均水深ト見テヨイ吾人ハ今或
流線ノ間ノ部分ヲトツテ(46)式ヲ應用シヤウト思フノデアルカラ上述ノ條件ニ應ズル様

ニスル事ハ容易テアル

$$\frac{a}{\chi} \approx h_0$$

(46) ハ次ノ如ニナカ

$$i = \frac{b}{h_0} U^2 + \frac{\alpha U}{2g} \cdot \frac{dU}{ds}$$

水流ガ速度ヲ急變シナイ場合（吾人ノ場合ハ隔壁端ノ特異點附近ヲ除イテハ皆然リ）ニハ U = 比シテ $\frac{dU}{ds}$ = 通常小ナリ夫レ故ニ今次ノ如ク假定スル事ガ出來ル

$$\frac{dU}{ds} = kU$$

但 k = 微量 = シテ整流 (Uniform flow) = 於テ $a = 0$ ハ μ 係數

然ルトキハシヘス

$$i = \frac{b}{h_0} U^2 + \frac{\alpha k}{2g} U^2, \quad U^2 = \left(\frac{b}{h_0} + \frac{\alpha k}{2g} \right)^{-1} i, \quad U = \sqrt{\frac{h_0 i}{b}} \left(1 + \frac{\alpha k}{2g} / \frac{b}{h_0} \right)^{-\frac{1}{2}}$$

$\frac{\alpha k}{2g} / \frac{b}{h_0} \ll 1$ ハ比マテ微量テアル故D式ノ右邊ヲ二項定理ニシテ展開シテ其最初ノ二項ヲ取ル

$$U = \frac{1}{\sqrt{b}} \left(1 - \frac{1}{2} \cdot \frac{\alpha k}{2g} / \frac{b}{h_0} \right) \sqrt{\frac{h_0 i}{b}}$$

レギュラ式ノ如ク $\frac{1}{\sqrt{b}} = c$ ハ置ケハ

$$U = c \left(1 - \frac{1}{2} \cdot \frac{\alpha k}{2g} \cdot \frac{h_0}{b} \right) \sqrt{\frac{h_0 i}{b}}$$

或ハ簡単ニ

$$U = c(1 - \xi) \sqrt{\frac{h_0 i}{b}}$$

組合式微量ナル係譜

但此式ニ於ケル c_1 ハ \dot{x}_1 ジー \dot{y}_1 试せ給ん (Bazin) 又ハがんじるー、く、たー (Ganguillet and Kutter) ノ式ニヨツテ求メラル、係數トハヤ、異レル值ヲ有スルモノデアル

水路ノ断面要素ニ働く壓力ハ凡テ靜水壓力ト同一ナリトス

潤面摩擦ニヨリ水流ニ爲サル、仕事ノ總量ハ整流 (Uniform flow) ノ場合ニ等シ

今日に於テ此等ノ假定が其儘受容セラル、ノ困難ナ事ハ明カデアル然ルニ動水力學ノ基礎公式タルをシラーエ (Euler's fundamental equations) リ水流ト潤面及水流内部ノ摩擦ヲ考入シテモ尙(46)ト同一公式ヲ誘導スル事ガ出來ル (Flamant; Hydraulique p. 38-43) 然シ乍ラ此レトテモ嚴密ニ批判スルトキハ一大矛盾ガアル即をヒラ一式ハ元來完全液體ニ其基礎ヲ置イテギルノニ此レヨリ(46)式ヲ導キ來ル際ニ外力ノ項ニ摩擦力ヲ挿入スルト云フコトデアル

然ルニ幸モ其後^{アフタ}ニシテ摩擦力又ハ粘性ヲ考入シテモ尙依然トシテ公式(46)ノ真ナル事ヲ證明セラル、ニ
所シタゞ^{マニ}ニシテ^アハ其名著流水論 (Essai sur la theorie des eaux courantes, 1872)ニ於テ此事ヲ證明シテキル尙其抜粹
ヘ Flamant; Hydrométrie p. 38 ノ脚註リ^ア又 Eldahl: s. 13-31 リ^ア載ツテキル然シ乍ラ更ニ進ンデ亂流ノ場合ニ對シ
テ此式ガ成立スルヤ否ヤハ今日ノ所理論的ノ證明ハ不可能デアル唯吾々ハ實際上此レヲ用ヒテ差支ナイトイフ實驗的證
明ニヨルヨリ外ナイ

擬此(46)式ヨリ吾人カ簡約シタ處ノ公式(47)ト先ニ詳論シタル流線式トヲ結合スル事ニヨツテ呑口又ハ吐口ノ水位ヲ見出サウトイフノガ著者ノコレカラノ仕事デアル此ニ至ツテ一考ヲ要スル問題ハ此二式ノ成立條件ノ差異トイフ事専デアル流線式ハ前述ノ如ク水流ヲ凡テ平面的ニ考ヘ共軛函數ヲ利用スル事ニヨツテ解決セラレタモノデアル共軛函數ノ成立ハ誠ツラ考ヘテ見レバ流速ノ速位(Velocity potential)ノ成立スルトイフ事換言スレバ $\nabla^2 \phi = 0$ or $\nabla^2 \psi = 0$ ナル事ヲ要スル今此レヲ或水流ニ應用スル爲メニハ水流ハ次ノ三ツノ條件ヲ必要トス

一 完全液體ニシテ非施廻性ナルコト

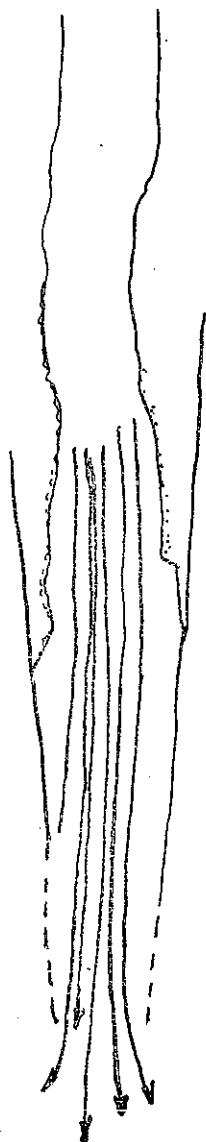
1) 定流(Steady flow)タルコト

三 流速ノ上下ノ方向ニ對スル變化ガナイコト

此ノ第一條件ハ(46)式ノ成立條件トハ多少異ツテキル(46)式ハ前述ノ如ク液體ニ粘性ガアルモノトシテ理論上正シイコトガ證明セラレタ此點ニ關シテ第一條件ハ粘性ヲ認メナイトイフコトハ正反對デアルガ曾ツテ第一節ニ述ヘタ如ク實際ノ亂流の水流デハ寧ロ水ノ粘性ヲ考ヘテ導出シタ薄層運動的ノ結論ハ當ハマラナイトイフコトガ實驗ニヨツテ確カメラレタノテアル從ツテ(46)式モ實際上ノ價値ハ其ノ理論的根據ガ粘性液體ノ上ニ建テラレテキルトイフ丈デハ決シテ保證サレタルモノデハナイ此レガ保證ハ理論的ニイヘバ亂流ニ基礎ヲ置イテ證明サレネバナラナイケレドモ此レハ現今ノ水力學デハ不可能ノコトデアルカラ全ク實驗ニヨツテ妥當性ヲ檢スルヨリ外ナインデアル幸ニシテ(46)式ヲ有名ナルしえじー式ノ族ト見テ可ナル故しえじー式ハ係數 c ノ決定法ガ發達シテ今日デハ工學上充分ノ精密度ヲ有スルモノト考ヘラレテキルノデアルカラ(46)式モ亦充分ノ精密度ヲ有シウベキモノト考ヘテモ差支ナカラシ而シテ流線式ニ於テモ水ノ完全液體非旋廻性ト見ルコトハ甚ダ亂暴ノ如クナレドモコヽニモ同様ノ理ニヨツテ此ノ結果ガ實際上充分ノ精密度ヲ與フルコトガ解レバ充分ナル次第アル河川運河ノ水流ヲ實際ニ就イテ少シク觀察シタ人ハ必ズヤ其ノ水流ガ決シテ單純ナル平行運動デハナク兩岸ニ近イ分子ハ絶エズ流心ニ誘ヒ出サレ底面ニ近キ分子ハ水面ニ導カレ他ノ部分ノモノハ此レニ代リツ

ノ亂流ヲナシテキルコトヲ知ル然シ乍ラスクノ如キ亂流アルニモ係ラズ此レ等ノ亂流狀態ノ爲メニ生ズル兩岸ヨリ流心ニ向フ分速度ハ兩岸ヲ離ルレバ比較的小ナクナリ從ツテ水深ニ對シテ充分ニ幅廣キ河川運河等ニ於テハ著シク兩岸ニ接近セル部分ヲ除イテハ此ノ横ノ分速度ハ無視シテモ差支ナイヤウデアル其ノ底面ヨリ水面ニ向フ分速度ハホヽ水深等シキ矩形的ノ斷面デハ河川ノ單位幅ヲトツテ一ツノ流線ト見做ストキハ各流線トモ平等ニ此ノ影響ヲ被ルコト、考ヘラレル此レ等ノ實驗ハ水路ノ流線ヲ浮子ヲ以テ測定スルトキニ其ノ浮子ガ甚シク横ニソレルコトナキ事實及斷面流速測定ノ結果其ノ等速線 (Isotachen) ガ可成ニ兩測ニ接近シテ水路ノ内部デハホヽ均一ナル流速ヲ有スルコト等カラ推察セラレル前者ノ例トシテハみしし、び一河ノ西南口ニ於ケル流速浮子測量ノ結果ニツイテ見レバ圖ノ如ク可ナリニヨキ平行性

圖五十一

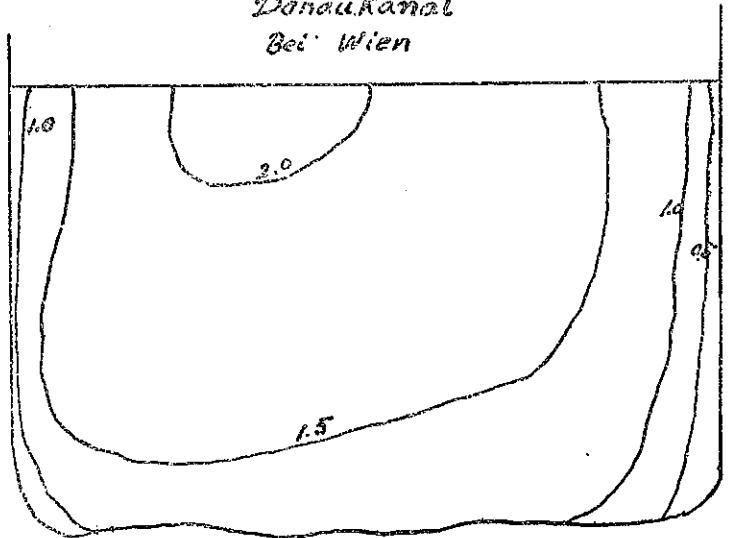


ヲ示シテキル (Professional memories XI 1919 後註) 又後者ノ例ニツイテハうぬーんニ於ケルどなう運河 (Hand. d. Ing. Wiss. Wasseran Bd. I s. 455) ハ川幅ガ其ノ水深ニ對シテ可成リニ小サイニモ係ラズ第十六圖ノ如ク等線流ハ可ナリニ兩岸ニ接シテキル最大流速ノ $1\frac{1}{2}$ ノ流線ハ兩岸カラ川幅ノ $\frac{1}{20}$ 位ノ所ニ位スル

尙此等ノ事實ガ吾々ノ問題ノ如ク水路ノ呑口及吐口ノ場合ニモ尙適合スルヤ否ヤハ問題デアルガ茲ニ例示スル如クみしつび一西南口ノ實測ニヨレバ流線ハ可ナリニヨイ安定ヲ保ツテキル

拟斯クノ如クニシテ一種ノ流線ハ成立スルコトヲ許ストシテモ尙次ノ問題ガアル即此ノ流線内部ノ狀況ガ果シテ完全液体ノ流線ト同一性質ヲ有スルデアラウカトイフ事デアツテ換言スレバ其ノ流線ニ關シテ速位ガ成立シウベキカ否カデア

Donaukanal
Bei Wien



圖

$$u = -\frac{\partial \varphi}{\partial x} + v_0 \quad \dots \dots \dots \dots \dots \dots \quad (48)$$

但 φ は水流ヲ非旋迴性ト考ヘタルトキノ速位

u_0, v_0 は渦其他速位以外ノ原因ニヨル速位

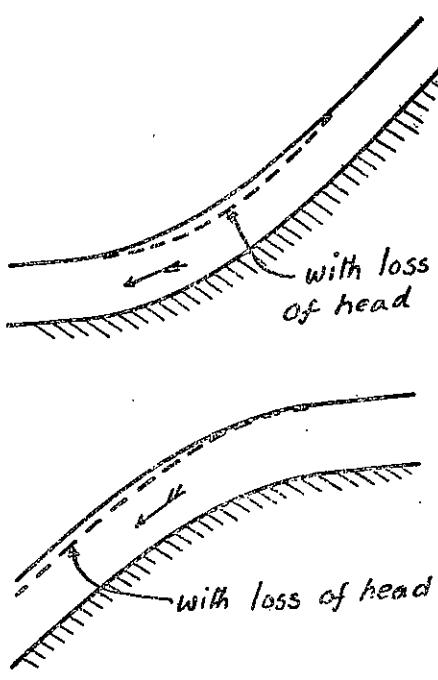
此處ニ於テ渦其他ノ速度ヲ生ズル第二次的原因ガ水流ノ各部ニ均

十
第一分布サレテキルト考ヘルトキハ(48)式ノ u_0, v_0 ハ常數トナル然ル
トキハ此ノ項ハ除去スルトモ問題ノ解決ニ何等性質的ノ變化ヲ來
タス要素トハナラナイ然シ乍ラ若シモ此ノ値ガ水流ノ各部ニ於テ
異ル場合ニハ u_0, v_0 ハノ函数トナツテ u, v ノ數學的解決ハ困難ト
ナル

水路ノ断面ガ急變スル場合ニハ寧ロ u_0, v_0 ガ常數デナイコトヲ實驗
ガ示シテキル即此處ニ起ル損失頭 (Loss of head) ト稱スルモノハ此レデアツテ管ノ水流ニ於テ著シク表レテキル吾々ノ
場合ニ於テモ呑口吐口等水流ノ断面ガ可ナリニ變ルノデアルカラ或ハ此ノ影響ガ表レナイトモ限ラナイ此ノ事ハ全ク實
驗ニヨラナケレバ精密ナルコトハ斷言出來ナイガ其ノ影響スル點ハ自由水面ノ勾配ヲ稍急ニスル性質ガアルト考ヘルコ
トヲ得吐口ニ於テハ多少其ノ勾配ヲ急ニスル位ノコトデスマガ呑口デハ此ノ爲メニ呑込量ヲ減少スル事トナルカラ注目
スペキコトデアル(第十七圖參照)尙吾々ノ後節ニ述ベル議論デハ此ノコトハ無視シテ他日實驗ノ結果此レニ就イテ再

ル此レハ甚ダ疑問デアルガ萬一速位ガ成立シナオトスレバ吾々ハ
分速度 u, v ヲ次ノ如クニ假定スルコトガ出來ル

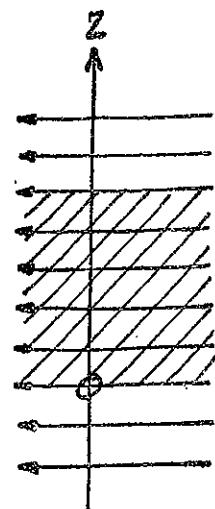
論スルコト、スル



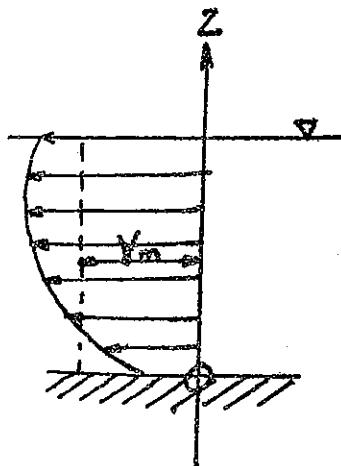
圖一七八

條件ノ第二ハ完全液體デアルナラバ摩擦力ガナイ爲メニ
水面ニ勾配ガ少シデモアレバ必ズ加速度ヲ生ズル等デア
ルカラ流線式ハ凡テ完全ナル平面ノ上ニ起ルモノト考ヘ
ネバナラナイ然ルニ實際ノ水流デハ底面ノ摩擦力ガアル
爲メ却ツテ相當ノ水面勾配ガアツテ始メテ加速度モ減速
度モナイ水流ヲ生ズル夫レ故ニ實際ノ水流ニ於テモ流量
一定ノ場合ニハ水位ハ自然水面勾配カラ決定サレ一定ノ
モノトナル從ツテ流速モ一定ノ點ニ於テハ常ニ不變デア
ツテ定流 (Steady flow) ノ條件ヲ満足スルコトガ出來ル 洪水ノ起リツ、アルトキノ如ク流量不定ノ場合ニハ此ノコトハ
成立シナイ又河川自身ノ流量ハタトヘ一定デアツテモ潮汐干満ノ作用ヲ受ケル海へ注グ河川ナドデハ水深ガ絶エズ時ト
共ニ變ル爲メ流速モ一定ノ場所ニツイテモ一定トハナラナイ從テ此處デハ此レ等ノ場合ハ全ク除外シテ考ヘル此ノコト
ハ後ニ餘論ニ於テ一寸述ベルコト、スル

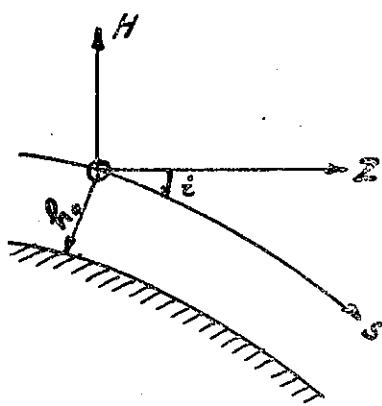
條件ノ第三ハ流速ノ上下ノ方向ニ對スル變化ノナイコトデ此レハ流線式ガ二軸的デアル爲メニ此レヲ實際ノ水流ニ適用
スル場合ニ必要トナル原來二軸的ノ流線ヲ以テ三軸的ノ水流關係ヲ決定スルコトハ理論上甚ダ妥當ヲカクコトデアルガ
今日ノ所三軸的ニ流線ヲ求ムルコトハ困難デアルカラ此レヲ適用シウルモノト假定シテ論ヲ進メルヨリ外ナイノデアル
元來水流ヲ二軸的ニ考ヘルコトハ流速ガ第三ノ軸（即此處デハ上下ノ方向ノ軸）ニ於テハ不變デアルコトヲ意味スルモ
ノデアツテ上下ノ方向ニハ無限ニ厚イ等速ノ層ヨリナツテキルモノト考ヘルベキデアル從ツテ吾々ハ其ノ一部ヲ $\alpha\gamma$ ニ
平行ナルニ平面デ切リトツテ考ヘルナラバ此ノ部分（第十八圖陰影ヲ施シタル部分）ノ水流ハソノマニ二軸的ニ云ヒ表



第十圖



第九圖



第十圖

ハスコトガ出來ル實際ノ水流ニ於テハ上下ノ層ニ於テ流速ガ不變デ
アルトイフコトハナイ實測ノ結果ニヨレバ水面ニ於テハ大デ水底ニ
於テハ小デアルコトガ知レテキルソコデ吾々ハ此ノ縦速線(Vertical
velocity curve)ノ平均流速ヲトツテ其ノ部分ノ流速ト考ヘテ水深ガ
水路ノ各所デアマリ異ラナイ且水面勾配ノアマリ大ナラザル實際ノ
水流ヲ考ヘンバ此レニ二軸的ノ流線ガソノマヽ充當スルモノト假定
スルコトハ或程度マデ許サレルヤウニ思ハレバ
(47)式ニ於テ坐標 s ルヲ第二十圖ノ如ク H ニ變ズレバ

$$I = i = -\frac{dH}{dz}$$

$$\therefore U = c_1 \sqrt{h_0 \left(-\frac{dH}{dz} \right)} \quad \dots \dots \dots \dots \dots \dots \quad (48)$$

然ルニ此左邊 I ハ流線式カラ得タル法則ニヨツテ各點デ變化スベキ
モノデアル今流線式デ速度ヲ一般ニ表セバ (12) カラ

$$|V| = \left| -\frac{du}{dz} \right| \quad \text{in reduced unit}$$

然シ此レハ凡テ流量ラ 2π ト考ヘテ出テキル式デ還元單位 (Reduced
unit) デ表ハシタモノトハベキモノデ (48) ハ實用單位デ表ハシテア
ルカラソノ單位ヲ等シクスル爲メニ流線ノ勝手ナ一點ニ於ケル流速
ヲ今實用單位デ表ハシコレヲ U トスル此ノ大サハ今知レテキルモノ

トスル此ノ U_1 ニ相當スル點ノ速度ヲ絶對單位デ表ハシコレヲ

$$-\frac{d\psi}{dz}$$
 トスル此ノ値ハ流線式カラ容易ニ求マルモノデ
 アル然ルトキハ

$$U = \frac{U_1}{\left| -\frac{dw}{dz} \right|_1} \quad \text{in practical units}$$

(48)
式二ヨリ

$$\left| \frac{U_1 - \frac{dw}{dz}}{-\frac{dw}{dz}} \right| = c_1 \sqrt{h_0 \left(+ \frac{dH}{dw} \right) \left(- \frac{dw}{dz} \right)}$$

$$\left| -\frac{dw}{dz} \right| dw = \frac{c_1^2 h_0}{U_1^2} \left\{ \left| -\frac{dw}{dz} \right|_1 \right\}^2 dH$$

$$\frac{c_1^2 h_0}{U_1^2} \left\{ - \frac{d w}{dz} \right\}_1^2 = A$$

ト置ケバ此ノ値ハ c_1 ヲ常數ト假定スレバ常數トナル

$$-\frac{dz}{du} = (38) \text{ 式ヲ入ル、時ハ}$$

此レ流線ノ要素的部分ニ於ケル水面ヲ示スベキ微分方程式デアル如何ナル角ヲ挿ムニ隔壁ノ場合デモ此ノ式ヲ遂次使用

スル事ニヨツテ自由水面ノ各點ニ於ケル高サヲ求メルコトガ出來ル又或場合ニハ此式ノ積分ガ可能デアレバ直チニ全體ノ自由水面ノ有様ガ求メラル

例ニヨツテ最モ大切ナ對稱線(中心線)ニ沿フ流線ノ自由水面ヲ求メレバ
(43)
(44)
(45)式ヨリ

ナル三式ヲ得

此等ヲ積分スレバ三ツノ代表的ノ場合ノ中心線ノ水面が求メラレル即(51)ヲ積分スレバ

$$A_0 H_0 + c = \log \frac{e^{\varphi}}{1+e^{\varphi}}$$

$$H \text{ の原點 } \varphi = 0 \text{ 时 } c = \log \frac{1}{2} = -0.693$$

$$\varphi < 0 \quad , \quad < 1 \quad , \quad < 0 \quad H_0 < 0$$

論說報告 水路ノ呑口及ビ吐口ニ於ケル水流特ニ河口ノ水流ニ就イテ

956

$$\begin{aligned}\varphi = +\infty \quad & \frac{2e^\varphi}{1+e^\varphi} = 2 \quad \log \frac{2e^\varphi}{1+e^\varphi} = \log 2 \quad H_0 = \frac{\log 2}{A_0} \\ \varphi = -\infty \quad & " = 0 \quad " = -\infty \quad H_0 = -\infty \\ \varphi = 0 \quad & " = 1 \quad " = 0 \quad H_0 = 0\end{aligned}$$

$$A_0 = \frac{c_1^2 h_0}{U_1^2} \left\{ \left| -\frac{dw}{dz} \right|_1^2 \right\}$$

$$\left| -\frac{dw}{dz} \right|_1 = \frac{1}{2}, \quad U_1 = U_0$$

$$\therefore A_0 = \frac{c_1^2 h_0}{4U_0^2}$$

$$\therefore H_0 = \frac{4 \log 2 U_0^2}{c_1^2 h_0} \quad \text{at } \varphi = -\infty \dots \dots \dots \dots \dots \dots \quad (55)$$

此ノリ 田ハテ得タニ恒ト圖ルノスルノ十ニ圖ヘ如
次ノリ(52)ノ積分スルニ

$$A_{\frac{1}{2}} H_{\frac{1}{2}} + c = \frac{8}{\pi} \tan^{-1} \left(e^{\frac{\varphi}{2}} \right)$$

$\approx H$ ノ原論ノ $\varphi = 0$ ノレバ

$$c = \frac{8}{\pi} \tan^{-1} 1 = \frac{8}{\pi} \cdot \frac{\pi}{4} = 2$$

$$\therefore A_{\frac{1}{2}} H_{\frac{1}{2}} + 2 = \frac{8}{\pi} \tan^{-1} \left(e^{\frac{\varphi}{2}} \right) \dots \dots \dots \dots \dots \dots \quad (56)$$

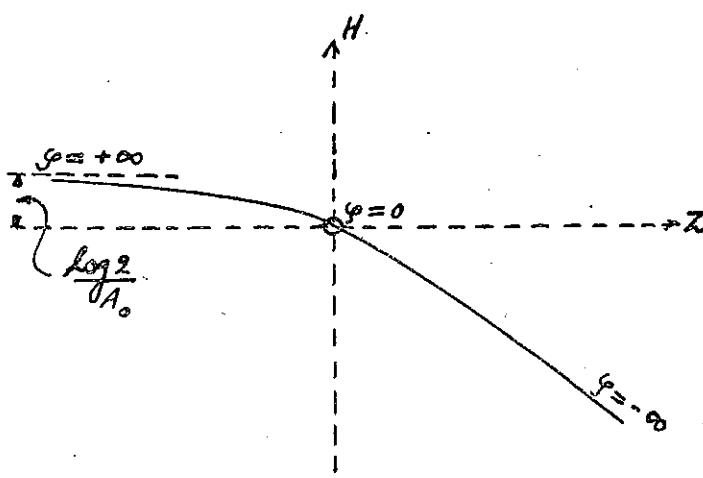


圖 11 第 1 次

$$\varphi = +\infty \quad \tan^{-1}(e^{\frac{\varphi}{2}}) = \frac{\pi}{2} \quad A_{\frac{1}{2}} H_{\frac{1}{2}} = 2 \quad H_{\frac{1}{2}} = \frac{2}{A_{\frac{1}{2}}}$$

$$\varphi = 0 \quad , \quad , \quad = \frac{\pi}{4} \quad , \quad , \quad = 0 \quad H_{\frac{1}{2}} = 0$$

$$\varphi = -\infty \quad , \quad , \quad = 0 \quad , \quad , \quad = -2 \quad H_{\frac{1}{2}} = -\frac{2}{A_{\frac{1}{2}}}$$

此圖示べく第11十11圖へ如々

(53) 依バ有限式リニシテ積分ヲ表バ事ハ困難デアルカラ級數積分ニニシテ表セキ

$$A_{\frac{1}{4}} H_{\frac{1}{4}} + c = \frac{16}{3\sqrt{2\pi}} \int e^{-\frac{3}{4}\varphi} (1+e^{-\varphi})^{-1} d\varphi, \quad \varphi > 0$$

$$= \frac{16}{3\sqrt{2\pi}} \left(-\frac{4}{3} e^{-\frac{3}{4}\varphi} + \frac{4}{7} e^{-\frac{7}{4}\varphi} - \frac{4}{11} e^{-\frac{11}{4}\varphi} + \dots \right)$$

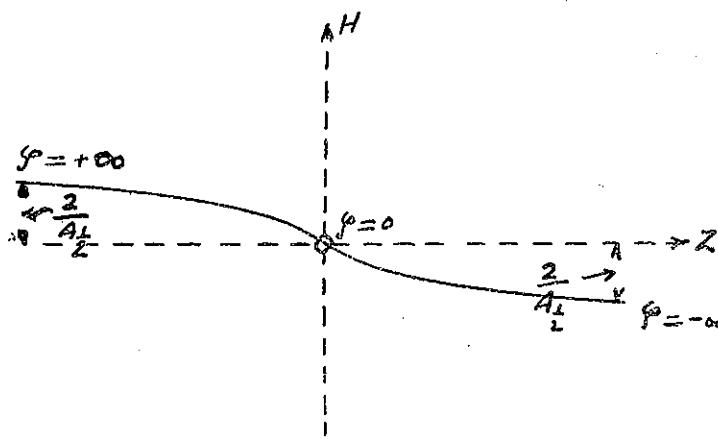
原點 $\varphi = 0$ にてカニ

$$11 \quad c = \frac{4 \times 16}{3\sqrt{2\pi}} \left(-\frac{1}{3} + \frac{1}{7} - \frac{1}{11} + \dots \right)$$

$$\therefore A_{\frac{1}{4}} H_{\frac{1}{4}} = \frac{16 \times 4}{3\sqrt{2\pi}} \left\{ -\frac{1}{3} \left(e^{-\frac{3}{4}} - 1 \right) + \frac{1}{7} \left(e^{-\frac{7}{4}} - 1 \right) \right.$$

$$\left. - \frac{1}{11} \left(e^{-\frac{11}{4}} - 1 \right) + \dots \right\}, \quad \varphi > 0 \quad \dots \quad \dots \quad (57)_a$$

$$\text{又 } A_{\frac{1}{4}} H_{\frac{1}{4}} + c = \frac{16}{3\sqrt{2\pi}} \int e^{\frac{\varphi}{2}} (1+e^\varphi)^{-1} d\varphi, \quad \varphi < 0$$



論 説 報 告 水路ノ呑口及ビ吐口ニ於ケル水流特ニ河口ノ水流ニ就イテ



$$= \frac{16}{3\sqrt{2}\pi} \left(4e^{\frac{9}{4}\rho} - \frac{4}{5}e^{\frac{5}{4}\rho} + \frac{4}{9}e^{\frac{9}{4}\rho} - \frac{4}{13}e^{\frac{13}{4}\rho} + \dots \right)$$

原點ヲ もりニオケバ

$$c = \frac{4 \times 16}{3\sqrt{2}\pi} \left(1 - \frac{1}{5} + \frac{1}{9} - \frac{1}{13} + \dots\right)$$

$$\therefore A_4 H_4 = \frac{16 \times 4}{3V\sqrt{2\pi}} \left[e^{\frac{q^2}{4\rho}} - 1 - \frac{1}{5} \left(e^{\frac{5q^2}{4\rho}} - 1 \right) + \frac{1}{9} \left(e^{\frac{9q^2}{4\rho}} - 1 \right) \right]$$

$$-\frac{1}{13} \left(e^{\frac{13}{4}} - 1 \right) + \dots \}, \quad \varphi < 0 \quad \dots \quad \dots \quad \dots \quad \dots \quad \dots \quad (57)_b$$

$$\frac{A_1}{4}H_4 = 1.35$$

$$H = 0$$

$$A_4 H_4 = -4.0 \quad H_4 = -\frac{4}{A_4}$$

此レヲ圖示スレバ第二十三圖ノ如シ

此レヲ圖示スレバ第一十三圖ノ如シ
次ニ流線 $\varphi = \frac{\pi}{2}$ ニツイテ同一ノ事ヲ行ヘバ
 $(43'')$
 $(44'')$
 $(45'')$ 式ヨリ

(51') ヲ 積分スレバ

$$A_0' H_0 + c = \frac{1}{2} \log \frac{\sqrt{1+e^2}-1}{\sqrt{1+e^{2p}}+1}$$

セイリョウ原點トスレ

$$c = \frac{1}{2} \log \frac{\sqrt{2}-1}{\sqrt{2}+1}$$

此式 \equiv 於 τ

$$\vartheta = +\infty, \quad \log \frac{1}{1 - e^{-\vartheta}} = \log \frac{1}{e^{-\vartheta}} = -\vartheta.$$

故ニ此値ヲ評價 (Evaluate) スルヤ

$$\frac{\frac{1}{2} \cdot \sqrt{1+2e^{2p}}}{\frac{1}{2} \cdot \sqrt{1+\frac{2e^{2p}}{1+2e^{2p}}}} = 1$$

$$\log 1 = 0, \quad \therefore H_0 = \frac{\frac{1}{2} \log \frac{\sqrt{2}+1}{\sqrt{2}-1}}{A_0}$$

$$A_0' = \frac{c_1^2 h_0}{U_1'^2} = \left\{ 1 - \frac{dw}{dz} \right\}_1^2$$

$$\left| -\frac{du}{dz} \right|_1 = \frac{1}{V^{\frac{1}{2}}}, \quad U'_+ = U'_0,$$

論 說 報 告 水路ノ呑口及ビ吐口ニ於ケル水流特ニ河口ノ水流ニ就イテ

$$\therefore A'_0 = \frac{c_1^2 h_0}{2 U_0'^2}$$

然ルニ元來此値ハ前ニ求タルト一致スベキ理ナルニヨリコレヨリ U_1 ド U_0' トノ關係ヲ見出シ得即

$$U_0' = 1.26 U_0$$

(52') ヲ 積分スレバ

$$A_{\frac{1}{2}}' H_{\frac{1}{2}} + c = \frac{-4}{\pi} \left(-2e^{-\frac{\varphi}{2}} + \frac{1}{5} e^{-\frac{5\varphi}{2}} - \frac{6}{72} e^{-\frac{9\varphi}{2}} + \dots \right) \quad \varphi > 0$$

$$c = \frac{4}{\pi} \left(-2 + \frac{1}{5} - \frac{6}{72} + \dots \right) \approx -2.44$$

$$A_{\frac{3}{2}}' H_{\frac{1}{2}} = \frac{4}{\pi} \left\{ -2 \left(e^{-\frac{\varphi}{2}} - 1 \right) + \frac{1}{5} \left(e^{-\frac{3\varphi}{2}} - 1 \right) - \frac{6}{72} \left(e^{-\frac{9\varphi}{2}} - 1 \right) + \dots \dots \right\} \quad \varphi > 0 \quad \dots \quad \dots \quad (56')$$

$$\frac{H_{\frac{1}{2}}}{A_{\frac{1}{3}}} = \frac{2.4}{\varphi} \quad \text{for } \varphi = +\infty$$

原點トスレ

$$A_3' = 1.2 A_1$$

此 $H_{\frac{1}{2}}$ の値は元來(56)ニヨリテ得タルモノト一致スベキニヨリコレヨリ $A_{\frac{1}{2}}$ ト $A_{-\frac{1}{2}}$ トノ關係ヲ見出スコトヲ得

或ハ此ヨリ尙 $U_{\frac{1}{2}}$ ト $U_{\frac{1}{4}}$ トノ關係ヲ見出シ得ルコト前ト同一デアル

(53') ヲ 積分シ原點ヲ $\theta = 0$ ニトレバ

$$A_4' H_{\frac{1}{4}} + c = \frac{4 \times 4}{3\sqrt{2}\pi} \left(-\frac{4}{3} e^{-\frac{3}{4}\varphi} + \frac{2}{11} e^{-\frac{11}{4}\varphi} - \frac{3}{38} e^{-\frac{19}{4}\varphi} + \dots \right) \quad \left. \begin{array}{l} \\ \\ \end{array} \right\} \varphi > 0 \dots \dots \dots \dots \quad (57')_a$$

$$c = \frac{4 \times 4}{3\sqrt{2}\pi} \left(-\frac{4}{3} + \frac{2}{11} - \frac{3}{38} + \dots \right) = -1.49 \quad \left. \begin{array}{l} \\ \\ \end{array} \right\} \varphi < 0 \dots \dots \dots \dots \quad (57')_b$$

$$A_4' H_{\frac{1}{4}} + c_1 = \frac{4 \times 4}{3\sqrt{2}\pi} \left(4e^{\frac{\varphi}{4}} - \frac{2}{9} e^{\frac{9}{4}\varphi} + \frac{3}{34} e^{\frac{17}{4}\varphi} - \dots \right)$$

$$c_1 = \frac{4 \times 4}{3\sqrt{2}\pi} \left(4 - \frac{2}{9} + \frac{3}{34} - \dots \right) = 4.64$$

此ヨリ

$$H_{\frac{1}{4}} = \frac{c}{A_4'} = \frac{1.49}{A_4'} \quad \text{for } \varphi = +\infty$$

$$H_{\frac{1}{4}} = \frac{c_1}{A_4'} = \frac{-4.64}{A_4'} \quad \text{for } \varphi = -\infty$$

(57) ヨリテ求メタル $H_{\frac{1}{4}}$ ノ値ト一致スミキニヨリ其ノヨリ $A_{\frac{1}{4}}$ ト $A_{\frac{1}{4}'}$ トノ關係ヲ見出ヘシトヲ得

$$A_{\frac{1}{4}'} = 1.1 A_{\frac{1}{4}} \quad \text{for } \varphi = +\infty$$

$$A_{\frac{1}{4}'} = 1.15 A_{\frac{1}{4}} \quad \text{for } \varphi = -\infty$$

此二値ハ合致スベキモノナムニセんが以下ニ示す誤差ヲ生ジタルハ近似法ヲ用ヒタル爲デアル尙此レヨリ $U_{\frac{1}{4}}$ ト $U_{\frac{1}{4}'}$ トノ關係ヲモ見出シ得ルコト前同様デアル

隔壁ニ沿フ流線ニ對シテハ隔壁尖端ニ於テ函数ガ特異點 (Singular point) ヲモツ爲メ積分ハ困難トナルガ此ノ場合ハ實用上ニモ不要デアルカラ省クコトハスル

尙流線ノ各點ニ於テノ自由水面ノ勾配ヲ見出ヘシトモ容易デアル (49) 式ヨリ

此ニ
(38)式ヲ入レル時ハ

$$\frac{d}{ds} \frac{dH}{ds} = -\frac{4 \sin^2 k\pi}{k^2 k' c^2} \times \frac{1}{(e^{2k\phi} + e^{-2k\phi} - 2e^{(k'-k)\phi} \cos \phi)} \quad \dots \quad \dots \quad \dots \quad \dots \quad \dots \quad \dots \quad (59)$$

(43) (44) (45) 式ヲコレニ適用スレバ

$$A_1 \frac{dH_1}{dz} = -\frac{1}{\frac{18\pi^2}{16 \times 16} \left(e^{\frac{3\mu}{4}} + e^{-\frac{\mu}{4}} \right)^2} \quad (62)$$

$$\varphi = \frac{dH_0}{dz} - \frac{dH_3}{dz} + \frac{dH_4}{dz}$$

— 60 —

以上ハ凡テ呑口ノ場合ナレドモ吐口ノ場合ニハ單ニ $\frac{dH}{dz}$ ノ符號ヲ反體ニスレバ直チニ求メラレル即(49)(58)ノ代リニ

ヲ用ヒレバヨイ從テ絶對值ニハ何等ノ差異ヲ生ジナイ事ハ明カデアル

以上ハ水路何レノ部分ニ於テモ水深ガ一定不變デアルヲ假定ノ場合ニ於ケル水位デアルガ萬一水深ガ各部デ異ツテルトキハ上述ノ場合ヨリ一層大膽ナル假定ヲシナケレバナラナイ即チ實際ノ場合ニ於テハ此水深ノ差ハ水深自身ニ對シテ小サイ場合ガ多イ様デアルガカ、ル際ニハ流線ハ殆ンド此場合ト同ジ舊形ヲ維持スルモノト假定シテ挿入法ヲ行ヘバ水位ノ問題ハ上述ノ方法カラ演繹スルコトヲ得例ヘバ平行隔壁ニヨリテ廣イ場ニ流出スル場合ノ如キハ次ノ如クニ考へレバ宜イ

假リニ海ト河川トノ場合ト考ヘレバ海ニ満干ノ差ガアルトカニヨツテ生ズベキ河海ノ水位
ノ達ヒ方ニ凡ソニ通リアル即河水ノ方ガ海ヨリモ水深ノ深イ場合ト淺イ場合トデアル前者ノ場合ニハ先ヅ以テ淺イ海ト
同一ノ水深ヲモツ河ヲ想像シテソレニ相當スル水面勾配ヲ流量カラ算出スル夫レカラ深イ河ト同一ノ水深ヲモツ海ヲ想
像シテソレニ相當スル水面勾配ヲ前ト同一流量トイフ條件ノ下ニ算出スル此二ツノ算出ニハ前述ノ等水深ノ場合ヲ其儘
用ヒル而シテ此二ツノ場合ヲ並立セシムル様河ノ部分デハ深イ方海ノ部分デハ淺イ方ニ漸近スル中間曲線ヲ流量不變ノ
條件カラ決定スル此中間曲線ハ嚴密ニ言ヘバ(46)式ヲ用フベキデアルガ此レハ元々一ツノ補正曲線位ニ考ヘレバしえじ一
式ヲ用ヒテ近似値ヲ得レバ充分デアラウ河水ノ方ガ海ヨリモ淺イ時モ同様ノ考ヘガ用ヒラレル

$$U = c\sqrt{R/L}$$

斷面 $A = B h$ 但 $B = \text{川幅}$, $h = \text{水深}$

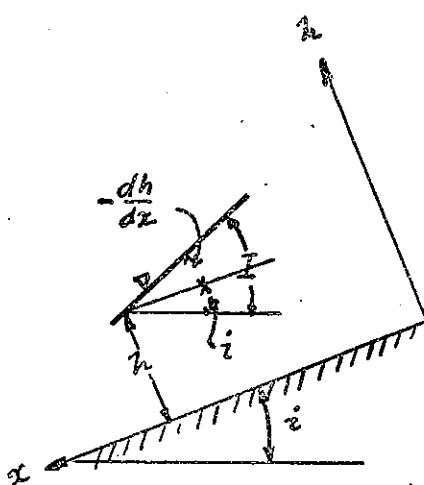
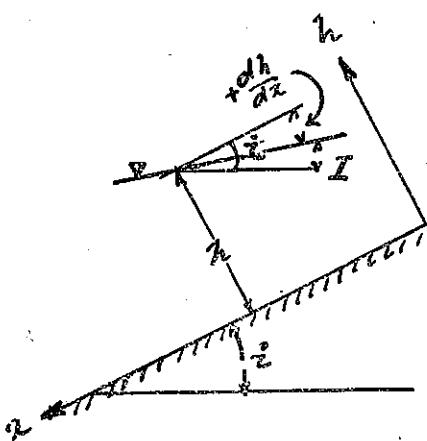
川幅充分ニ大ナルトキハ

故ニ流量 Q ハ次ノ如クナル

$$Q = Ac \sqrt{R I} = c B h^{\frac{3}{2}} I^{\frac{1}{2}}$$

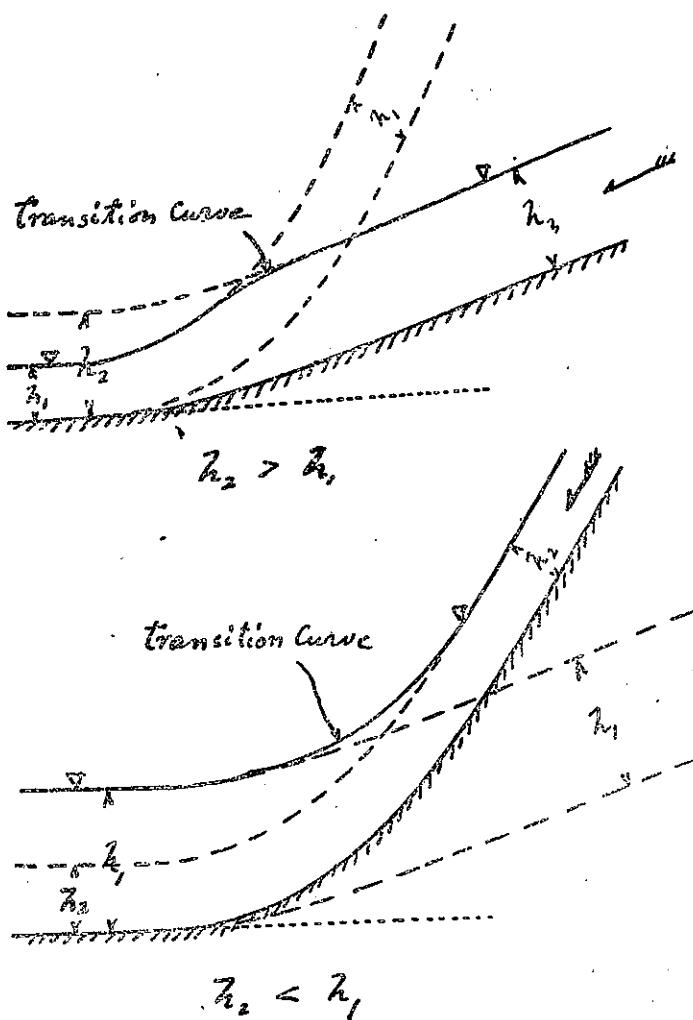
今川底ヲホヽ平面ト考ヘ其ノ傾斜角ヲ α トシ底面ニ沿ヒ下流ニ向ツテ一軸 α ヲトリコレニ直角ニ坐標軸ムヲ取ルトキ圖ニヨリ水面勾配ノ値ハ次ノ如クナル事ヲ知ル

第二十四圖



$$I = i - \frac{dh}{dx}$$

第一十五圖



此レ推移曲線 (Transition curve) ヲ與フベキ微分方程式ナレドモ此式ヲ積分スル事ハ困難デアル 従テ吾々ハ此式ニ先づ常數モシクハ常數ニ近キ Q 及ビ B の値ヲ挿入シ次ニ上流推移點ヨリシテ逐次ノノ値ヲ挿入シテ一ツノ直線族ヨリナル包絡線 (Envelope) ヲ描クトキ此レ求ムル推移曲線ニシテ其大體ノ模様ハ第二十五圖ノ如クナル

$$\frac{dh}{dx} = i - \frac{Q^2}{c^2 B^2 h^3} \quad (65)$$

七 河口水流ノ實例

實際ニ起ル呑口吐口ノ水流ニ就イテ上述ノ各式ヲ應用スル場合ニ考ベキコトハ上述ノ公式ヲ直接應用シ得ベキ理想的ノ場合ガ實際ニ其儘現ハル、事ノ甚ダ稀デアルトイフ事デアル即水路ノ各部ニ於テ水深一定不變ナル事水流ガ平靜ニシテアマリ大ナル流速ヲ有セザル事流量並ビニ水位一定不動ナル事等ノ事項ガ理想通りニ行ハル、コト少ナク加フルニ風波海流ノ影響其他種々地方的影響ヲ受ケテ實際ニハ恐ラク極メテ複雜ナル現象ヲ呈スルコトデアラウ從テ斯カル場合ニ公式ヲ適用スル際ニハ色々ノ補正ヲ要スル事ハ一般ノ自然現象ヲ證明スペキ場合ニ常ニ起ル事デアル吾人ノ場合モ恐ラク簡單ニ公式ヲ適用スル事丈デハ到底完全ニ當ハマラナイト思ハレル從ツテ實例ニ就イテ詳細ニ亘ツタ應用法ノ示ス事ハ甚ダ必要ナ事ト信ズル次第デアルガ不幸ニシテ斯クノ如キ實例ヲ有ナナイ爲メ著者ハ先賢ノ記録ヲ借リテ不完全乍ラモ今マデ述べ來ツタ公式ノ應用ノ一端ヲ試ミヤウト思フ

寡聞ナル著者ガ先賢ノ書ヲ涉ツテ得タ實例ノ中デ比較的詳細ニ亘ル調査報告ハ Professional Memoriess IX (1917) 1 E. H. Schulz ガ記載シタ The Passes of the Mississippi River 及ビ同誌 XI (1919) 1 Lipsey ガ報告シタ Currents at and near mouth, Southwest Pass, Mississippi River ハアル兩者何レモ世界有數ノ大河デアルみしし、び一河口殊ニ主トシテ其ノ南西口ノ記述デアツテ後者ノ如キ可成ニ詳細ナ測量調査ノ結果ヲ擧ゲテ居ルガ尙充分トハ言ハレナイ例ヘバ河口上下ノ水面勾配ニ就イテハ何等観測ノ結果ヲ擧ゲテナイ又測定時ノ流量ニ就イテモ何等記載スル所無ク河口ノ斷面海底ノ模様等河口ト海トノ水深ノ關係ヲ見出スベキ基件モ無イ從ツテ著者ハ此處ニハ簡単ニ流線ノ方向及中心流線ニ沿フ流速ヲ比較スル位ニ止メナケレバナラナイ

此實例ニ於テハ流線ノ方向ト流速トハ比較的ヨク調査サレテキル風向等ノ事モ考ヘラレテキルシ又洪水時ニ泥水ヲ吐出シ其ノ海水トノ境界線ヲモ測定シテアル此等ニヨツテ流線ニ就イテハ可成ニ確實ナル要件ヲ與ヘル次第デアル且其レ等ノ測定ニ用ヒタル浮子等ニツイテモ相當研究ノ結果風等ノ爲メニ起ル誤差ヲ極メテ少サキモノニシテキル等可成ニ信賴

スルニ足ル結果デアラウト思ハレル

みししひ一河ハ一、二四〇、〇〇〇方哩即全合衆國ノ凡四一%ニ當ル廣大ナル流域ヲ有シテ最大流量（此時に一ある
れあんすト南西口突堤先トノ水位差二〇・八三尺此距離一一四哩）凡一、三〇九、八〇〇呎秒ニ達ス其低水流量ト雖モ一
〇〇、〇〇〇呎秒ヲ有スル稀世ノ大河デアル其河口ニ近キ部分ハ廣大ナル三角洲ヲナシテヰテ數個ノ派川ニヨツテ海ニ
注イデキル南西口ハ其ノ中ノ主要ナルモノデ古クカラ航行用トシテ南口ト共ニ問題トセラレテキタ所ノモノデアル其概
況ハ別紙附圖第六ニ示ス如ク河口ニ達スル迄ニハ可成長イ（凡一九・五哩）均一幅員（凡二、〇〇〇呎）ノ河流ヲナシテ其
尖端ニハ附根デ六、〇〇〇呎尖端デ三、〇〇〇呎ノ幅員ヲ有スル多少收斂的ノ突堤ニヨツテ海ニ導カレテキル然シ乍ラ此
收斂突堤ノ内側ニハ適當ナル距離ニ水制ヲ設置シテアツテ内部ハ凡三、〇〇〇呎ノ均一幅員ノ流路ヲ作ソテキル故吾々
ハ此レヲ平行突堤トシテ取扱フ方ガ寧ロ適切デアル此突堤ノ間ヲ流下スル平均洪水流量ハ全みししひ一河ノ約四〇・
九%ヲ占メ凡三五五、〇〇〇呎秒デアルトイフ事デアル其際ニ於ケル南西派川ノ分歧點ト河口トノ水位差凡五呎トセラ
レテキル水路ノ断面ハ詳細ナル報告ナキモ兩側深サ二〇呎中心三五呎位ノ可ナリ角形ニ近キモノ、様デアル

此ノ西南口河口附近ニ於テ測定セラレタ水流ノ觀測ハ一九一五年四、五月ニ於テ表面水流五水中流二又一九一六年四
月ニ於テ表面水流一水中流三、又一九一六年十月ヨリ一九一七年九月ニ至ル間ニ表面水流二、水中流五アリ多クハ河ノ
洪水時ニ於テ行ツテキル此レ此ノ觀測ノ主タル目的ガ洪水時ニ流下スル泥土ノ問題ニアルガ爲タデアル尙水中流ハ表面
下九〇呎ノ深サニ至ルマデ觀測シテキル

此等ノ觀測ノ結果ヲ綜合スレバ低水時ニ於テハ潮汐ノ影響（此附近めさしこ灣ノ潮汐ノ差平均一六吋）ニヨツテ河口ノ水
流ハ順逆ヲ生ジ複雜ナル狀況ヲ呈スルモ洪水時ニ際シテハ殆ンド常ニ規則正シク流出シテ突堤尖端ヨリ凡三、〇〇〇呎
ノ海中迄殆ンド河水ヲ以テ海水ヲ置換スル而シテ其レヨリ先ハ漸次河水ハ海面ノ上層ニ浮ビ出テ其厚サ（即流出河水ノ
水深）ハ漸次薄クナツテ約一〇哩ニ近キ海上ニ流レ出ヅルトイフ事デアル其形狀ハ扇狀ヲナシテ流線モ可ナリニ規則正

シイ且突堤尖端ヲ遠ザカルニ從ツテ漸次流速ヲ遞減スル事及河ノ水位ノ高低ニヨリテ其等ノ流速ニ大小ヲ生ズル事モ知レテキル又風ノ方向及大サガ此等流線ノ方向及流速ニ影響スル事ハ勿論デアルガ其等ハヤハリ洪水時ニ於テハ極メテ少ナイ事ガ解ツタスクノ如キ河水ノ下ニ横ハル海水（即灣水ト稱スルモノ）ハ其上ヲ流レル河水ノ影響ヲ受クル部分モ多少アル筈デアルケレドモ此レハ他ノ影響ヲ被リ必ズシモ河水ト行動ヲ共ニシテヰナイ又河水ト灣水トノ境界面附近ニ於テハ河水ト灣水トノ衝突ニヨリ多數ノ渦ヲ生ズル爲メ一層複雜ナル運動ヲナシテヰルトイフ事デアルベん（A. Penck: Morphologie der Erdoberfläche 1894 II. teil s. 497）くりさんめる（O. Krimmel: Ozeanographie II. 1887 s. 359）ハ如キ地理學者ハ河水ガ重イ海水中ニ注入スル場合ニハ河水ハ水面ニ浮流シ海水ハ此ニヨリテ下部ヲ逆流シテ河口ニ向ヒ之ガ門洲ヲ作ル主因タル如ク説クケレドモ此處ニアゲタ實測デハ甚ダシク底面ニ近イ部分ハ解ラナイケレドモ相當ノ深サ迄ハ少クトモ逆流ヲ生ジタ例ハ無イ様デアル此レハ洪水時ニ限ルカモ知レナイガ注目ニ値スル事デアル

擬實測ニヨツテ得タル水面流線ノ方向及其等ヨリ挿入法ニヨツテ凡テノ方向ノ水面流線ヲ示スベキ附圖（Prof. Mémoires XI. P. 81）ニ吾々ノ平行壁ヨリ流出スル流線ヲ應用スルニ當リ吾々ハ色々々ノ縮尺ヲ用ヒテ其流線ヲ描イテ見テ曲率ノ比較的ヨク合フモノヲ重ネ合セテ見ルト別紙附圖第七ノ如クナル即平行壁ノ壁面ニ近キ部分ノ流線ハ全ク現レナイデ僅カニ中央部ノミガ現レテキル此レハ先ニ水流ノ性質ノ所デ述ベタ如ク水ノ水中ヘノ噴射ノ問題デアツテ諸大家ガ説ヲ異ニスル處デアル此ノ場合モシ流線外ノ部分ガ空氣ナラバ真ノ噴射トナルノデアルカラ水力學ノ教ヘル所ニヨレバ突堤ヲ出タ水流ハ少クトモ暫クノ間ハ突堤端ノ幅ト等シイ幅ヲ以テ全ク等速流ヲ續ケルベキ筈デアル又其部分ガ個體デシカモ摩擦ノ影響ヲ無視シ得ルナラバ水流ハ流線ノ何レナリトモ（即シノ勝手ナ值）個體ノ形ニ合ツタ曲率ヲモツ流線ヲ境界トシテ其レヨリ中央部ノ流線ニヨリテ成立スルコトハナル然ルニ吾々ノ場合ハ此ノ兩者ノ何レニモ屬セズシテ其外側ノ部分ヲ充タスニヤハリ水ヲ以テスル爲メ問題ハ複雜ニナル然シ如上ノ實例ニ就イテ考ヘルニ實際ニハ後者即外側ノ水ヲ個體ノ如ク動カナイモノトシテ考ヘテモ大ナル不便ガナイ様デアル即附圖第七ニヨレバ突堤端ノ幅一・八（還元值即シノ值

タ〇カラニマテシテ其值ニテ計リタル値)即 $\psi = 2.24$ ガ最モ外側ノ流線即限界流線ヲナシテキル突堤先端ノ眞ノ幅ハ
三〇〇〇呎デアルカラ還元値ノ一ハ一・六六五呎程リナル流線ノ先端ハ一般ニ右側ニ曲ツテキルガ此レハ灣流ノ影響デ
アツテ此處ニハ考ヘル必要ガ無イ尙試ミニ中心流線ニ沿フ流速ニ就イテ實例ト理論ノ結果トヲ比較スル即最モ整然ト觀
測サレテアル一九一七年一月及二月ノ水面流速ノ實測 (Prof. Memo. XI p. 77) ノトリ此レヲ V-S 圖表(附圖第11)ヨ
リ得タル結果ト比較スンバ次ノ如シ

突堤端ヨリノ距離 (呎)	3,500	11,000	18,000	25,000
同 (絶對値)	2.1	6.6	10.8	15.0
實測流速 (呎)	6.58	3.43	1.94	1.76
同 (絶對値)	0.48	0.25	0.142	0.128
理論流速 (絶對値)	0.48	0.28	0.18	0.13

但絕對流速、三〇五〇呎ノ所ノモノガ實際ト理論ト一致スル様ニトハ

此レヲ見レバ流速漸減ノ割合ハ實際ト理論ト良ク合ツテキルコトヲ知ル突堤附近ノ水深ハ正確ナルコトハ不明デアルガ凡三〇呎位ノ様デアル而シテ海中ニ進ムニ從ツテ元ヨリ水深ハ漸次ニ増大スルケレドモ此ノ海底ニ近キ或高サ迄ハ灣水ガ存在シ其爲ニ河水ノ水流ノ深サニ關シテハ極メテ複雜ナル現象ヲ呈シ此レガ何程トナレルヤラ想像スルコトハ困難デアルガ如上ノ結果ニヨレバ少クトモ水面流速ニ就イテハ吾々ノ理論ノ要求スル條件ガ可ナリニ良ク満足サレテキル觀ガアル何レニシテモ極メテ複雜ナルベキ河口流ニ於テ斯クノ如キ一致ヲ見ルノハ寧ロ不思議デアル

即吾々ハ河口ニ於テ今二三ノ代表的水面流線ノ形狀ヲ觀測スルコトガ出來ルナラバソノ水面流線ニツイテハ如上ノ方法ニヨリ凡テノ方向ニ對シテ流線ノ方向及流速ノ大サヲ計算スルコトガ出來ルシカモ其等ノ場合海底ノ勾配等ハアマリ關係ヲ有シナイ尙進ンデ平均流速ノ關係如何ニ至ツテハ尙複雜ナル考察ヲ要スル事デモアリ今日デハ檢證ノ材料タル實測ノ結果ヲ持タ無イカラ後日ノ研究ニ譲ルコトハスル

八 河口ニ於ケル土砂堆積

前述ノムニシ、ア・パ・南西口ニ於ケル如ク又ヘーん中央口 (Guérard: On the mouth of the River Rhone, Inst. C. E. LXXXII 1885.) だは、ミーバ・チャーチ (Hartley: On the changes that have recently taken place along the sea coast of the delta of the Danube and on the consolidation of the provisional works at the Sulina mouth, Inst. C. E. XXXVI, 1873) 信濃河口 (安藝博士土木學會誌第一卷第三號) ニ於ケル如ク土砂ヲ排出スル河川ガ潮汐作用ノ少ナイ海中ニ注入スル場合ニハ必ズ其處ニ洲ヲ生ズル斯クノ如キ洲ノ成因ハ極メテ多種多様デアルケレドモ主トシテ河川ノ出土砂ニヨル事ハ諸大家ノ說ヲニスル所デアル而シテ河川ガ土砂ヲ多量ニ排出スルノハ洪水ノ際デアルカラ洪水時ノ河口流ノ問題ヲ研究スレバ門洲ノ生成ガホヽ解ル事トナル洪水時ノ河口流ハ平水時ヨリモ却ツテ吾々ノ理論ト一致シ得ベキニヨリ此レハ甚ダ都合ノヨイ事デアル

河川ガ流下スル土砂ノ中輕ク少ナルモノハ水流中ニ支ヘラシテ浮流 (Suspension) ヲナシツ、流出スル重キ大ナルモノハ水底ヲ轉々シ所謂轉動 (Rolling) ヲナシツ、流出スル浮流ニヨルモノハ遠ク海中ニ出デ廣キ面積ニ漸次沈澱シテ海洲 (Bank) ヲナシ轉動ニヨルモノハ近ク河口附近ニ堆積シテ門洲 (Bar) ヲナスセノト考ヘラル此ノ二者ハ全ク異シタ性質ニヨツテ成生サレルモノデ海洲ノ方ハ航行上差シタル大問題トナル事ハ少ナイガ門洲ニ至ツテハ河口港ニ於ケル最モ重大ナル問題デアル著者ハ即コノ二者ニ就イテ論ズルコト、スル

先ヅ門洲ノ成生ニ就イテ考フルニ河底ヲ轉動スル土砂 (Geschiebe) ノ運動ニ關シテゐる河ノ研究者トシテ有名ナリシやル (Leechalas) ハ從ヘバ河底ノ土砂ガ移動シ始ムル爲メニハ或限界流速アリ此レヲ超過スル時ハ土砂ハ漸次移動ヲ始メ流速再び漸減シテ或值ニ達スレバ再び轉動ヲ止ム而シテ此ニシテノ限界流速ハ多少大サヲ異ニスルケレドモ底面ヲナス土砂及水深水面勾配等ニ變化ナケレバ何レモ一定不變ノ値ヲナシテキル (Flamant: p. 309) 斯クノ如キ限界流速ガ土砂ノ大小形狀及比重ニヨリテ變化スル事ハ勿論ニシテ此レニ關シテハ通常ノ水力書ニ詳論アリ (Flamant: p. 292; Handb. d.

$$U = \sqrt{\frac{2g_{\theta}}{k} \cdot \frac{V}{A} \left(\frac{H_1}{H} - 1 \right)} \quad (66)$$

又滑動ニ必要ナル限界流速 U_0

トナルコノ二者ニ於テ

$$V = \text{砂粒の容積}, \quad A = \text{砂粒の水流=向ツテの断面積}, \quad D_i = \text{砂粒の比重}$$

$H = \text{水深}$, 比重, $\theta = \text{砂粒} = \frac{\text{颗粒重力}}{\text{水流力}} \times \text{挺率}$, 比:

f = 砂粒・河底・ノ限界摩擦係數, k = 砂粒・形狀ニヨリ水流力・係數

k 價球：0.7886 (Eytelwein)
精圓：0.8 (Sternberg)

何レニシテモ土砂ノ形狀大サ比重ヲ知レバ H ノ値ハ求メラレル而シテ此(66)(67)ノ H ノ値ハ大差ナシば一か一(Parker)す
ら。Thrupp ハ河底ヲボダ同一形狀大サ比重ノ砂粒ヲモツテ充タシテ水流ノ勾配水深等ヲ變ヘテ色々ノ場合ノ限界
流速ヲ實驗ニヨツテ求メタ其等ノ結果ニヨレバ砂粒ノ流レ始ムルトキノ水路ノ斷面ノ平均流速ハ水流ノ勾配其他ニハ無
關係デ只水深ノ或體ニ比例スル即式ヲ以テ表ハセバ

但 $v = \text{砂粒} / \text{流レ始ムルトキノ断面平均流速}, H = \text{水深}$

k, n = 係數べいしゆ ベキの指数じしき 乗法じゆふ

論 説 報 告 水路ノ呑口及シ出ロニ於ケル水流等ニ河口ノ水流ニ就イテ

K11

細砂粒	(平均径 0.01)	$n = 0.5$	$k = 0.5-1.5$
粗砂粒	(平均径 0.04)	$= 0.3-0.33$	$= 1.5-2.2$
礫		$= 0.25$	$= 2.2-5.0$

流速が漸減シテ行ツテ今マテ轉動シテキタ砂粒が停止スルニ至ル限界時ハ斷面平均流速也亦如上ノ式ト同一ノヤノヲ以テ表ハシ得單ニ係數 k 及 n の値ニ少シシズノ差アルノモアヘ (Parker: Control of Water p. 492)

擬門洲ノ生成ヲ論ズルニ當リ河底ヲ充タスニホド均一ノ形狀大サ比重ヲセツ砂粒ヲ以テスルモノト考へ此ノガ流下シ河口ニ達シテ流速ノ減少ニアヒ堆積スルモノトスルトキハ元來河口附近ニ於テハ水深ハホド等シキカ又ハ急激ナル變化ナシトイフ假定ニヨツテ今迄モ論シテ來テキルノデ吾々ハ此ノ場合土砂ノ堆積ヲ始ムル場所ハ單ニ平均流速ノ或一定ノ值ヲ有スル軌跡ヲ求レムバ足リル既ニ求メタ流線式ハ表面流速ニ對シテハ可成ニヨク當ハマルコトハ前節ニ述ベタ通リデアルガ今暫ク平均流速ニ對シテモ尙適用シ得ルモノト考へテ其等ノ式カラ水路ノ種々ナル點ノ平均流速ヲ研究スルコトスル

流速ノ絶對値ヲ與フル一般ノ式ハ(38)ナリ

夫レ故ニ等流速ノ軌跡ハ(38)式ニ於テ

$$|V| = \text{Const.} \quad \dots \quad (69)$$

即

$$e^{ik\varphi} + e^{-ik\varphi} - 2e^{k\varphi - k\psi} \cos \psi = \text{Const.} \quad \eta^2 \text{ say} \quad \dots \quad (70)$$

ニヨリテ與ヘラレル

此式ニヨリ二ノ代表的ノ場合ニ就イテ等流速軌跡ヲ求ムル時ハ次ノ如シ

$$k = 0, \quad k' = 1; \quad e^{i\varphi} + 1 - 2e^\varphi \cos \psi = \eta_0^2 \quad \dots \dots \dots \dots \dots \dots \dots \quad (71)$$

$$k = k' = \frac{1}{2} ; \quad e^{\varphi} + e^{-\varphi} - 2 \cos \psi = \eta_1 \quad \dots \dots \dots \dots \dots \dots \dots \quad (72)$$

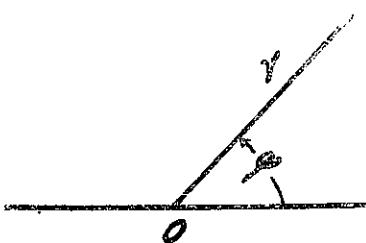
$$k = \frac{1}{4}, \quad k' = \frac{3}{4}; \quad e^{-\frac{3}{2}\varphi} + e^{-\frac{1}{2}\varphi} - 2e^{\frac{1}{2}\varphi} \cos \psi = \eta_1^2 \quad \dots \dots \dots \dots \dots \dots \dots \quad (73)$$

此等ノ式ハ η_1 ニヨリテ與ヘラレテキル爲メニ直チニ空間的(x , y 的)ニ描出スルニハ更ニ此等ノ式ト三ノ流線式⁽⁴⁰⁾⁽⁴¹⁾⁽⁴²⁾トノ間ニシテノ消去ヲ行ハザルベカラザル理合ナレドモ別紙附圖第一、第二、第三ニ於テ既ニ空間ニ η_1 値ヲ入レ込

ミアルヲ以テ此ノ圖ニ直チニ等流速軌跡ヲ⁽⁷¹⁾⁽⁷²⁾⁽⁷³⁾用ヒテ記入スルコトヲ得此等ノ曲線ハ

今 η_1 代リニ η_1^2 ラウノ代リニ η_1^2 ラ入レ^スト動徑アニトリウラ動徑ト原線 $O-A$ トナス角

圖六
トスレバ(第十六圖參照)



$$e^{\frac{1}{2}\varphi} = r$$

$$\therefore r^4 - 2r^2 \cos 2\psi + 1^2 - \eta_1^2 = 0 \quad \dots \dots \dots \dots \dots \dots \dots \quad (71)$$

$$r^4 - 2r^2 \cos 2\psi + 1^2 - r^2 \eta_1^2 = 0 \quad \dots \dots \dots \dots \dots \dots \dots \quad (72)$$

$$r^4 - 2r^2 \cos 2\psi + 1^2 - r \eta_1^2 = 0 \quad \dots \dots \dots \dots \dots \dots \dots \quad (73)$$

即此等ノ式ハかしに一ノ卵形線又ハ此レニ類似ノ曲線ヲ表ハス別紙附圖第一、第二、第三ニ於ケル η_1 ノ取り方ハ此處ニ吾々ノ考ヘタノト少シク異ツテキルケレドモ要スルニ此處ニ考ヘタ取り方ヲ少シク變形ニスルコトニヨツテ得タルモノデアル(四参照)即チ此處トイフ放射狀動徑直線ハ附圖第一、第二、第三ハ放射狀曲線トナツテキルノノ取り方モ同様變形シテキル從ツテ別紙附圖第一、第二、第三ノ場合ニ於ケル⁽⁷¹⁾⁽⁷²⁾⁽⁷³⁾ノ曲線ハかしに一卵形ノ變形デアルコトガ想像サレル今此レヲ描出シテ見ルトホ、別紙附圖第八ノ如クニナル圖中ノ數字ハ還元單位デ表ハシタ流速ノ大サヲ示ス此ノ圖ヲ一目シテ氣ノ付クコトハ出口ノ中央正面ガ流速ガ比較的小サク從ツテ此處ニ門洲ヲ生ズルトイフコトデアル

尙流速ノ分布ヲ検ベルノニ等速位線ニ沿フテ其ノ絶對值ヲ求メル方法ハ數學的ニハ極メテ容易デアル(38)ニ於テ

卷之三

$$\therefore e^{kp} = c_1, \quad e^{-kp} = c_2, \quad c_1, c_2 \text{ 常數}$$

此式ニ於テ變數 h_1 ノミデアル且 c_1 c_2 ハ常ニ正ナルヲ以テ V ノ最小値ハ

$$\cos \phi = -1 \quad \text{or} \quad \phi = \pi$$

ニヨツテ與ヘラレル又最大值分

$$\cos \phi = +1 \quad \text{or} \quad \phi = 0$$

即チ中心線ニソウ水流ニテ流速最小ニシテ壁ニ沿フ水流ニテ流速最大デアル而シテ其レ等ノ値

(74) ヲ先キノ三代表流線ノ場合ニ應用スルトキ

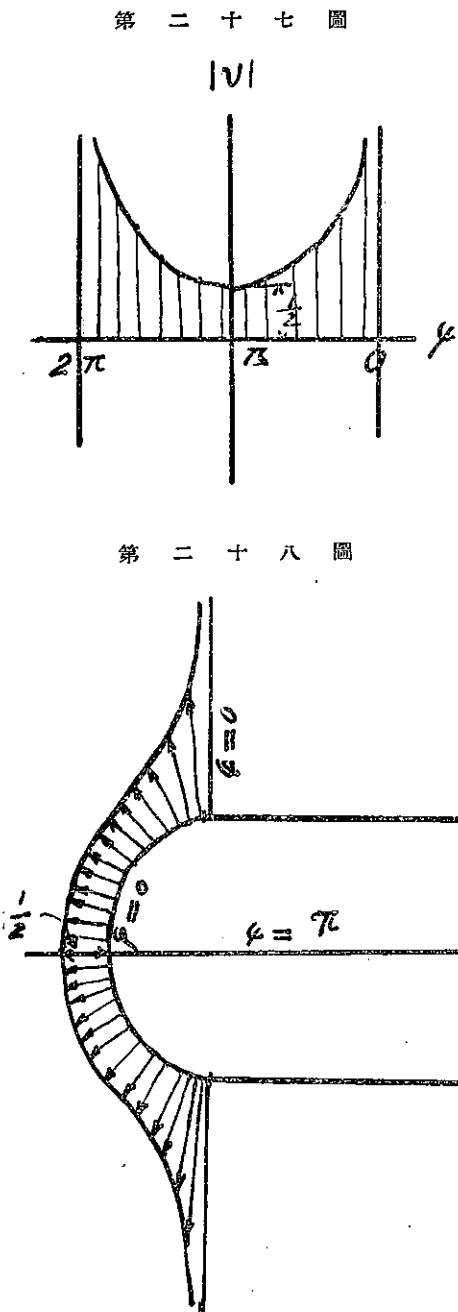
$$\frac{0}{0} = [A]$$

故ニ此レヲ評價スル爲メニ k ニ就イテ分子ヲ微分シテ $k \rightarrow k' = c$ ニ上記ノ値ヲ挿入スレバ

試ミニテノニ沿フテノ値ヲ求ムレバ

1

故ニ吾々ハシラ横軸ニトリ V ラ縦軸ニトレバ第二十七圖ノ如クナルコトヲ知ルシラ取ルベキ横距ハ實ハ $m = 0$ ノ等速位曲線デアル其レ故ニ此レニ V ラ配當シテ見ルト第二十八圖ノ如クナル



其一

$$k = k' = \frac{1}{2}, \quad c = 2\pi; \quad c_1 = e^{\frac{\phi}{2}}, \quad c_2 = e^{-\frac{\phi}{2}}$$

if $\varphi = 0$, $c_1 = c_2 = 1$

$$k = \frac{1}{4}, \quad k' = \frac{3}{4}, \quad c = 2\pi, \quad c_1 = e^{\frac{3\pi i}{4}}, \quad c_2 = e^{-\frac{3\pi i}{4}}$$

if $\varphi = 0$,

(80) (82) ハ (78) ト全ク同性質ニシテ單ニ係數ノ差アルノミデアル

洲ガ此處ニ多ク存在スル理由ハ此レニヨツテ明白トナル尙門洲ガ漸次發達スルニ從ツテ遂ニ河口ガ左右ニ別レテ三角洲ヲナスニ至ルコトモ此レニヨツテ知ルコトヲ得

吐口ニ土砂ノ堆積スル模様ノ實例ヲヤハリ前述ノみしし、び一西南口ニトツテ此レニ等速線ヲ入レテ見ル附圖第七ニ於テ吾々ハ吐口ノ幅ヲ一・八即最モ外側ノ流線ヲ $\psi = 2.24$ ニ取ツタ故此處デモヤハリ其レヲ使ツテ此ノ間ノ等速線ヲ描出シテ見ルト第二十九圖ノ如ク堆土ノ有様ガ等速線ニ沿フ傾向ガ見エル圖中斑點ノ最モ薄キ所ハ一九〇九年ヨリ一九一五年ニ至ル間ニ一〇呎乃至二〇呎堆土ノ起リシ所更ニ斑點ノ多キ所ハ同期間ニ二〇呎乃至三〇呎ノ堆土黒色ノ部分ハ同期間ニ於テ三〇呎以上ノ堆土ノ起リシ所ヲ示ス河水ハ泥土ヲ含有シテキテモ通常海水ニ比スレバ其比重ハ小サイ其ノ爲メニ河水ハ海中或距離ニ達スレバ全ク水底ヲ離レテ海水ノ上面ニ浮ビ出ル其ノ爲メニ土砂ノ轉動ハ此點ヨリ進ムコトガ出

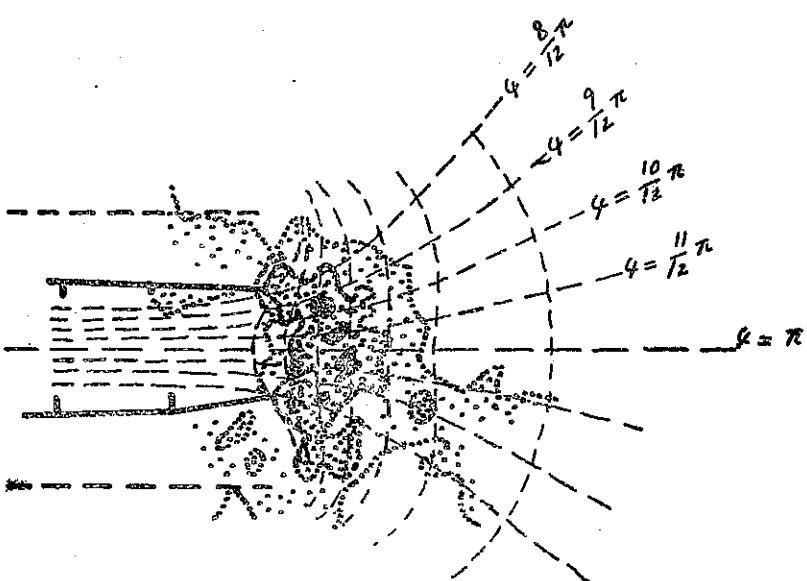


圖 110

來ナイ夫レ故ニ此點ヨリ先キテハ上記ノ等速線ニ沿フテ門洲ガ出來ルトイフ事ハ無イ河水ト海水トノ比重ノ差ガ甚ダシク流速ガ比較的緩デ海底ノ勾配ガ急デアル時ニハ此ノ限界點ガ河口ニ可ナリ近ヅイテ來ル

門洲ノ成因ハ上述ノ原因ノミデハ無イ砂濱デ沿岸漂沙ノアル所デハ此ノ運動ガ大イニ原因ヲナス上流カラアマリ土砂ヲ流下セズシテ沿岸ノ漂沙ノ多イ場合ニ起ル門洲ハみしし。ピーナドト多少ノ趣ガ異ツテヰテ多クハ半圓形ニ出來ル此ノ等速線ノ可ナリ外側ノ部分ヲトルモノト考ヘルコトガ出來ル此ノ著シイ例ハグにす港ノある。わあ港口 (Port of Chioggia) ハアルグにす港口ハグにすらぐーんニヨツテ土砂ヲ全ク沈澱セシムル爲メ港口ノ門洲ハ全ク沿岸漂沙ニヨヘモノト考ヘラレバ而シテ其ノ形状ハ Luigi Luigi; Works for the Improvement of navigable estuaries, (Transactions International Engineering Congress, 1915, Waterways and irrigations p. 279) に在ベ第110圖ノ如クテ

アル

尙又砂濱デハ海波モ門洲ヲ作ル有力ナル原因ヲナスモノテ此ノ關スル理論的ノ研究ハ一抹ノベキ也 (Vedel) ムベフ人ノ詳細ナ論文ガ Transaction of American Society of Civil Engineers, International Congress 1904 リ出テキルカラ此處ニ述べル迄モナニコレアル。

論 説 報 告 水路ノ呑口及ビ吐口ニ於ケル水流特ニ河口ノ水流ニ就イテ

六八

以上ハ最初ニ断ツテアル通り總テ潮汐ノ小サイ河口ノ場合デアツテ潮汐ノ大キイ河口ニ關シテハ餘論ニ於テ一言スル積リデアル

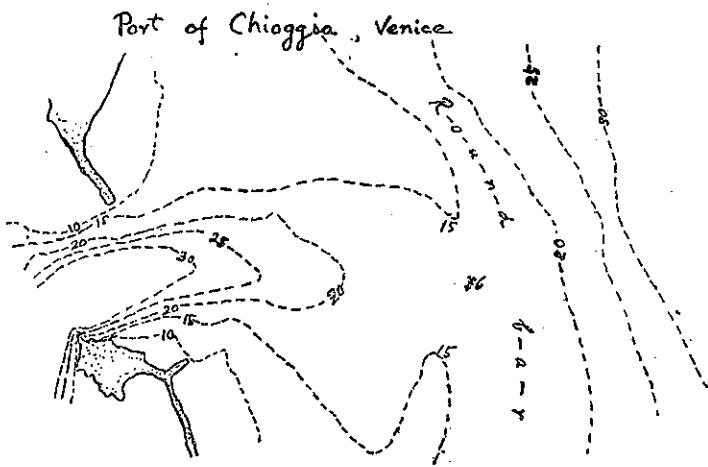
次ニ浮流ニヨツテ河水ニ運バレ海中ニ入リタル土砂ハ轉動ニヨルモノニ比シテ遠距離ニ流出シテ漸次沈澱スル勿論比較的重キモノハ早ク沈澱シテ轉動ニヨル堆土ノ上ニモ沈積スル今假リニ浮流土砂ハ一樣ニ均質ノモノト考ヘ河口ヲ出デ、ヨリ常ニ一定ノ速度デ沈下スルモノト考ヘルトキハ沈下スル深サハ河口ヲ出デ、ヨリノ時間ニ比例スル其レ故ニ海底ノ深サニ大差ナキトキハ等時線ヲ描クトキハソノ曲線ハ海洲ノ形狀ヲ與フル理デアル

速度ニ關シテハ絕對值ヲトレバ足リル

$$|V| = \frac{\delta s}{\delta t}$$

但 s, t ハ空間及時間、

δ ハ其ノ微量ヲ絕對值ニテ表ハシタルモノ



$|V|$ の値 $\text{バ} (38)$ ニ マリ

$$|V| = \frac{2 \sin k\pi}{k^2 c} \cdot \frac{1}{\sqrt{e^{2k\psi} + e^{-2k\psi} - 2e^{(k-k')\psi} \cos \psi}}$$

$$\frac{1}{|V|^2} = \frac{k'^2 k^2 c^2}{4 \sin^2 k\pi} (e^{2k\psi} + e^{-2k\psi} - 2e^{(k-k')\psi} \cos \psi)$$

此レヲ (83) 式ニ挿入スルベ

$$\delta t = \frac{k'^2 k^2 c^2}{4 \sin^2 k\pi} (e^{2k\psi} + e^{-2k\psi} - 2e^{(k-k')\psi} \cos \psi) d\varphi \quad \dots \quad (84)$$

此式ヲ用ヒ定數ト考ヘテ δt ニ就ケテ河口ヨリ海中ノ任意ノ點マテ積スルベ一定ノ流線ニ沿フ河口カラ流出シテ海中ノ任意ノ點マテ達スルニ要スル時間ヲ求メラレバ今河口ノ φ ノ値アリトシトスルベ

$$\begin{aligned} t &= \frac{k'^2 k^2 c^2}{4 \sin^2 k\pi} \int_{\varphi_1}^{\varphi_2} (e^{2k\psi} + e^{-2k\psi} - 2e^{(k-k')\psi} \cos \psi) d\varphi \\ &= \frac{k'^2 k^2 c^2}{4 \sin^2 k\pi} \left\{ \frac{e^{2k\psi}(\varphi_2 - \varphi_1)}{2k'} - \frac{e^{-2k\psi}(\varphi_2 - \varphi_1)}{2k} - \frac{2e^{(k'-k)(\varphi_2 - \varphi_1)}}{k' - k} \cos \psi \right\} \dots \dots \dots \dots \dots \quad (85) \end{aligned}$$

此式ニ於テ k, k' ニ適當ナル値ヲ入ルベ色々ノ角度ヲ有スル隔壁ノ場合ニ於ケル値ヲ得今特別ノ場合トシテ平行壁ノ場合ニ就イテ考ヘバ

$$k = 0, \quad k' = 1, \quad c = 2\pi$$

$$|V_0| = \frac{1}{\sqrt{e^{2\psi} + 1 - 2e^\psi \cos \psi}}$$

$$t = \int_{\varphi_1}^{\varphi_2} (e^{2\psi} + 1 - 2e^\psi \cos \psi) d\varphi \quad \dots \quad (86)$$

論 説 報 告 水路ノ河口及支口ノ於ケル水流特ニ河口ノ水流ニ就イテ

O₄₂

中心線ニ沿ハサハ

$$\psi = \pi$$

$$t = \int_{\varphi_1}^{\varphi_2} (1 + 2e^\varphi + e^{2\varphi}) d\varphi$$

河口ニ於ケル φ ノ値ハ $\varphi = -1.3$

$$\therefore t = \varphi + 2e^\varphi + \frac{e^{2\varphi}}{2} - \left[-1.3 + 2 \times e^{-1.3} + \frac{e^{-2 \times 1.3}}{2} \right] = \varphi + 2e^\varphi + \frac{e^{2\varphi}}{2} + 0.72 \quad \dots \quad \dots \quad \dots \quad \dots \quad \dots \quad (87)$$

壁面ニ沿ハサハ

$$\varphi = 0$$

$$t = \int_{\varphi_1}^{\varphi_2} (1 + 2e^\varphi - e^{2\varphi}) d\varphi$$

河口ニ於ケル φ ノ値ハ $\varphi = 0.0$

$$\therefore t = \varphi - 2e^\varphi + \frac{e^{2\varphi}}{2} - \left[0 - 2 + \frac{1}{2} \right] = \varphi - 2e^\varphi + \frac{e^{2\varphi}}{2} + 1.5 \quad \dots \quad \dots \quad \dots \quad \dots \quad \dots \quad \dots \quad (88)$$

中心線ト壁面トノ中間 $\varphi = \frac{\pi}{2}$ ニ沿ハサハ

$$t = \int_{\varphi_1}^{\varphi_2} (1 + e^\varphi) d\varphi$$

河口ニ於ケル $\varphi = -1.0$

$$t = \varphi + \frac{e^\varphi}{2} - \left[-1.0 + \frac{e^{-1.0}}{2} \right] = \varphi + \frac{e^\varphi}{2} + 0.93 \quad \dots \quad (89)$$

(87)(88)(89) [式ニラテシタ計算シテ表示スレバ次ノ如シ

	$\psi = \pi$	$\psi = 0$	$\psi = -\pi$
0		3.22	0
1	4.72	10.85	0.72
2		10.89	44.80
3	24.09	245.40	16.02
		16.09	7.98
		165.82	30.23
		20.71	205.43

勿論此ノ表ニ於ケル s_t ハ何レモ還原単位ヲ以ツテ表ハセルモノデアル
 今此ノ結果ヲ用ヒテモ一表ヲ作ルトキハ別紙附圖第九ノ如クナル

此ノ應用例トシテ先ニ引用シタルみしし、¹ び一西南口ノ場合ヲトレバ理論上等時線ト限界流線トヲ以ツテ圓マレタル海
 洲推積面ハ一個ノ銀杏型ヲナスベキデアルガ Lipsey ガ報告スル所ニヨレバ泥土ヲ含ム河水ト海水トノ境界線ヲ測定セ
 ル結果一ツノ圓扇狀ヲナストイフ今適宜ノ等時線ヲトリテ實測ノ境界線ト比較スレバ別紙附圖第九ニ示ス如シ即中心附
 近ハ實際ノ場合ノ方突出シ河口附近ニ於テハ左右ニ擴大シテキル真ノ中間ノ處ニ於テハ却ツテ實際ノ場合ノ方ガ内部ニ
 入ツテキル此レ等ハ理論ト實際トノ違ヒデアツテ河口ニ近接シテ兩側ニ存在スル湛水ハ河口ヨリ吐出ス水ヨリ速力少ナ
 キ爲メ水壓高クシテ自然吐水ヲ壓迫スベク其ノ爲限界流線ハ著シク亂サレテ此處ニ河海兩水ノ混入スルヲ免レザルベク
 其ノ結果此ノ附近ニ於テハ實際ハ遙カニ幅廣キ範圍ニ泥水ヲ見トメルコト、ナルベク銀杏型ノ角ノ附近ハ一見到底實際
 上カ、ル規則正シキ屈折線ヲ生ゼザルベキハ想像ニ難クナイ此ノ邊ハ勿論圓味ヲ帶ビテ削リトラレンニ至ルデアラウ其
 ノ他吐口ヲ出テカラ河水ハ海水ノ運動及其河水トノ比重ノ異ヒノ影響ヲ受ケルトカ又海水ノ影響ヲ考ヘナイニシテモ河
 水自身ノ上下層ノ流速ノ相異ニヨツテ又ハ混流ニヨル上向分速度ニヨツテ水ヨリ比重多キ物體モ優ニ浮遊スルコトヲ得
 ベク此ノ事ハ物體ノ大サ小ナレバ益々大トナル爲メ泥土ノ如キ小ナル浮遊物ハ益々此レ等ノ影響ヲ受クルコト大トナル
 (Flamant: Hydraulique p. 298)

從ツテ浮遊土ノ沈澱ガ單ニ河口ヨリノ時間ニ比例スルトイフ假定ハ嚴密ニハ到底適合セズ故ニ此處ニ導出シタ様ナ等時線ヲ以テ河水ト海水トノ境界線又ハ海洲ノ堆積面ヲ決定スル方法ハ粗雑ナル近似値ニ止マルコトヲ免レナイ

九 餘 論

上述ノ理論ノ歸結トシテ水路ノ呑口及吐口ニ於ケル水流ニ就イテ數學的理論ノ產物タル流線式ガ其ノ一二ノ例ニ於テハ實際上ニモ可ナリニヨク適合スルコトヲモ示スコトガ出來タノデアル然シ乍ラ此ノ流線式ヲ應用スル場合ニモリ。附近ノ流線ハ實際ニハ現レナイデオトガトノ間ノ或值ヲモツ流線ガ限界流線トシテ最モ外側ニ現レルコトハみししばノ例ノ如クデアル而シテ此ノ限界流線ガ何程ノ值ニナツテキルカトイフコトヲ識別スル爲メニハ吾々ハ河口ニ於テ實際存在スル所ノ二三ノ代表的水流線ヲ實測シテ見ナケレバナラナイトイフコトハ既ニ七ニ於テ述べタ通リデアル此ノ事ハ既ニ案堤ヲ築造シタ後ニ於テ始メテナサル、事デアツテ屢々港灣工學上ノ論點トセラル、水深維持ノ目的ヲ以テ河口ニ設ケラル、導水突堤ノ方向ノ問題ニ對シテ突堤未設前ニ最モ適當ナル方向ヲ豫言スルコトハ此ノ方向デハ不可能ノコトナル

此ノ問題ノ解決ニハ限界流線ノ值ヲ豫知スルヲ得レバ充分デアツテ此ノ限界流線ノ值ヲ決定スルトイフコトハ根本ノ流線理論ニ何等ノ變化ヲ來タスコトガ無イ何トナサバ流線理論ニ於テハ其ノ何レノ值ノ流線ヲ以ツテ水流ノ限界線ト考ヘテモ其水流ノ平衡ニハ何等妨碍ヲ生ジナイカラデアル而シテ此ノ限界流線ヲ決定スルトイフコトハ結局突堤先端ノ幅員ヲ還元單位ニテ何程ニトルカトイフ事ニ歸シ從ツテ全ク數量的ノ問題ニ外ナラナイ總テ緒論ニ述べタ如キ斯クノ如キ性質的デナイ數量的ノ問題ノ解決ハ實驗係數ノ導入ニヨツテ其ノ目的ヲ達スルモノト考ヘラレル從ツテ此ノ問題ヲシテ更ニ一步ヲ進メシムル爲メニハ相當ノ實驗ノ必要ヲ生ズルコト、ナル

限界流線ノ值ハ恐らく流速水深河海底ノ狀況突堤ノ構造等ニヨツテ定マルベク此等ニ關シテハ他日相當ノ實驗ニヨリ基件ヲ得テ再論シ得ベシト信ズル

次ニ上述ノ議論ニ於テハ直線型ノニ突堤ガ種々ナル角度ニ於テ交ル場合ヲ基トシテ論ジタノデアルガ天然ノ河川ノ河口ノ如ク喇叭型ヲナシタルモノ又ハ曲線突堤ヲ設置セル河口ノ如キ場合モ以上ノ所論ヨリ得タル流線ハ可成ニ多種類ノ形狀ノモノガアルカラ此等ノ中カラ此レニ適合スルモノヲ見出シテ上述ノ論ヲ準用スルコトヲ得ベシト思ハレル又萬一斯クノ如キ都合ヨキ流線ヲ得ラレザルトキハ先ニ共軸函數ヲ用ヒテ解キタル程正密ナル結果ヲ要セザル場合ニ於テハ目ノ子的ニ圖上ニ於テ流線ヲ推定シ描出スルコトハサマデ困難デハナイ

次ニ注目スベキハ吐口ノ水流及水面勾配急ニシテ水流ガ此處ニ於テ上述ノ如ク連續性ヲ保有スルコトガ不可能ナル場合デアツテ此ノ時ハ水流ヲ形成スル分子ガ慣性ノ爲メニ流線ニ沿フテ彎曲シテ外海ニ流出スルコト不可能ノ場合デアル此ノ場合ニハ突堤ノ先端ニ於テ水流ハ凡テ中心線ニ平行ニ流出シ恰カモ空中ニ向シテ噴射スルトキノ如クニ斷面不變ナル一つノ整流ヲナス此ノ整流トシテ形作ル不變断面ノ大サハ勿論ニ隔壁ノナス角ニヨリテ異リ從シテ流量ヲ同一不變ノモノトナストキハ噴出スル流速ハ自ラニ隔壁ノ角度ニヨツテ支配セラル、コト、ナルスクノ如キ噴射ノ理論(Theory of jet)ハヘルむほるつニヨツテ既ニ解決セラレテキル (Kirchhoff: Mechanik p. 290-307)

然シ乍ラ河口ノ如キ場合ニハ空中ニ噴口スル如キ簡単ナルモノデハナイ第一ニ河口ニ於テ突堤ヲ離レテ中心線ニ平行ニ流出スル場合ニ空中ニ於ケルガ如ク自由ニハ行カナイ第二ニハ例ヘ一時ハ整流ヲナスニ至ルトモ整流ヲナスニハしきぢ一式ニヨリテ決定スベキ適當ノ水面勾配ヲ要ス廣大ナル水平面ヲ有スル海中ニ於テ斯クノ如キ狀態ガ左程永ク續クモノトハ考ヘラレナイヤガテハ四方ニ離散シ放射狀ニ流出スルニ至ルハ明カナコトデアル斯クノ如クニシテ噴射ノ理論ハ河口ニハ不適當デアツテ寧ロ通常ノ流線論ヲ準用スルニシカズルモノト思ハレル斯カル場合ノ水面勾配ハ恐ラクハ一時的ニ整流ノ勾配ヲ取リテ少シク下流ニ至リ段波 (Standing wave) ヲ生ジテ後放射流出ヲナスノデアラウ

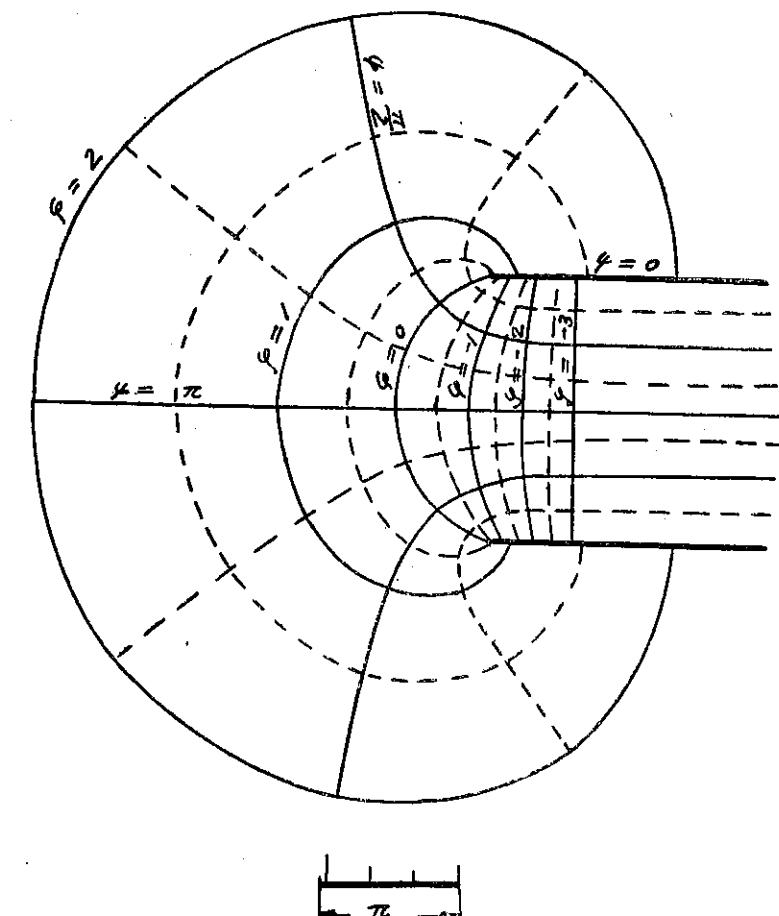
次ニ重大ナル問題ハ潮汐作用ノ大ナル河口ノ問題デアル元來河口港トシテハ潮汐作用ノ大ナル河口ノ方水深維持容易ニシテ此ノ方ガ寧ロ重大ナル研究題目デアル然シ乍ラ此ノ場合ノ嚴密ナル理論的研究ハ河口ヨリ流出スル水流ニ對シテ海

論 説 報 告 水路ノ呑口及ビ吐口ニ於ケル水流特ニ河口ノ水流ニ就イテ

七四

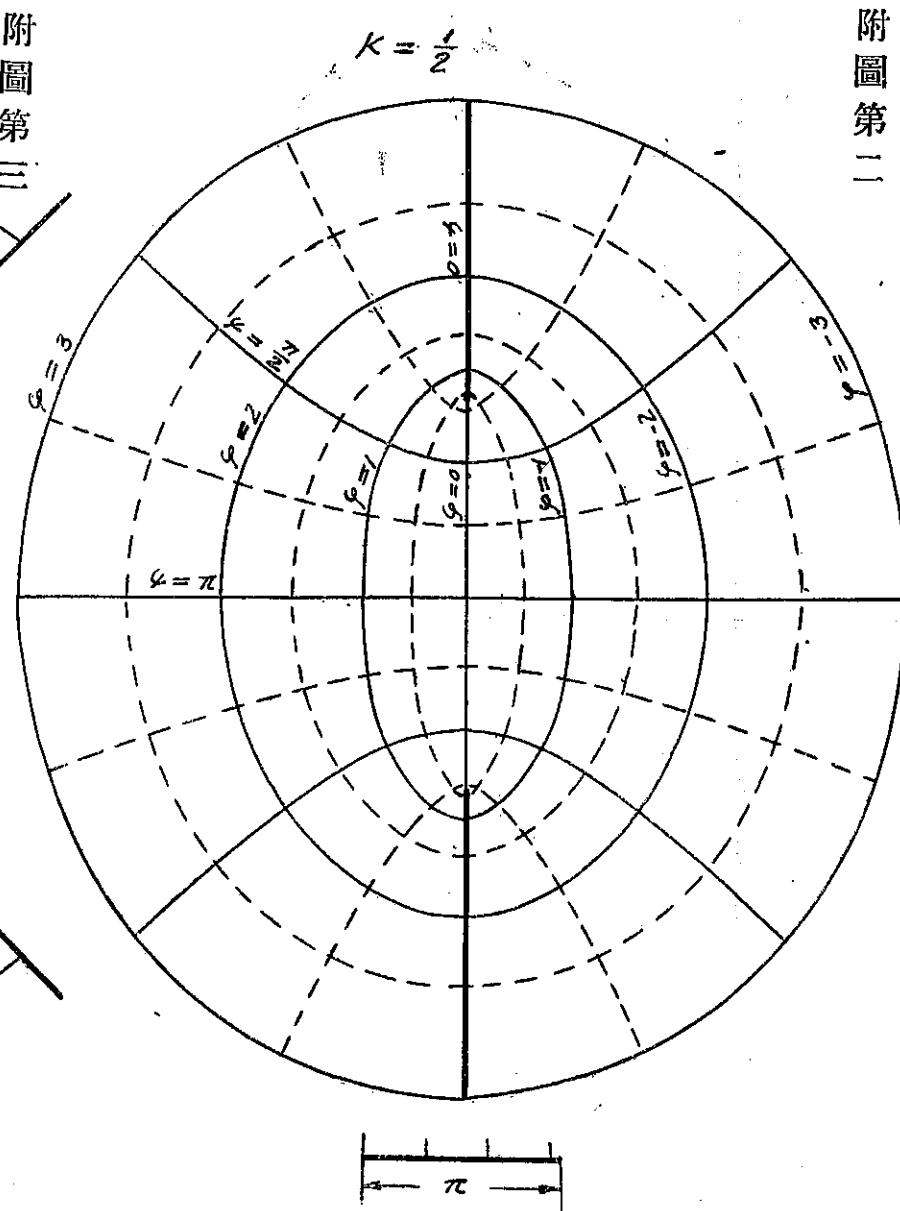
水ガ慣性ヲモツ爲メニ或ハ抵抗的或ハ助勢的ノ働ラナシ到底通常ノ流線理論ニ於ケルガ如ク海中ノ水ハ何等河水ノ注入ニ支障又ハ助勢ヲナサズトイフ見解ハ用ヒラレナイ加フルニ凡テノ函數ハ時間ノ影響ヲ受ケ新タニ一ツノ變數ヲ增加スルコト、ナリ一層問題ヲ複雜ニスル又萬一壅堤内部ノ河幅ガ水位ト共ニ著シク變化スル場合ノ如キハ此ノコトモ考入スルヲ要シ到底容易ニ解決ヲ得ベクモ見エナイスクノ如キ水流ガ河口ノ門洲ノ成因ト如何ナル關係ヲ有スルカニ就イテハれ一のるづノ模型實驗 (Osb. Reynolds : Scientific papers. Vol. II. p. 380-p. 518) ハ著名テアルガ斯クノ如キ場合ノ水流其ノ者ノ研究ニシイテモ尙スカル實驗ガ有效ナリヤ否ヤハ甚ダ疑ハシイコトデアル (完)

平行隔壁ノ流線圖



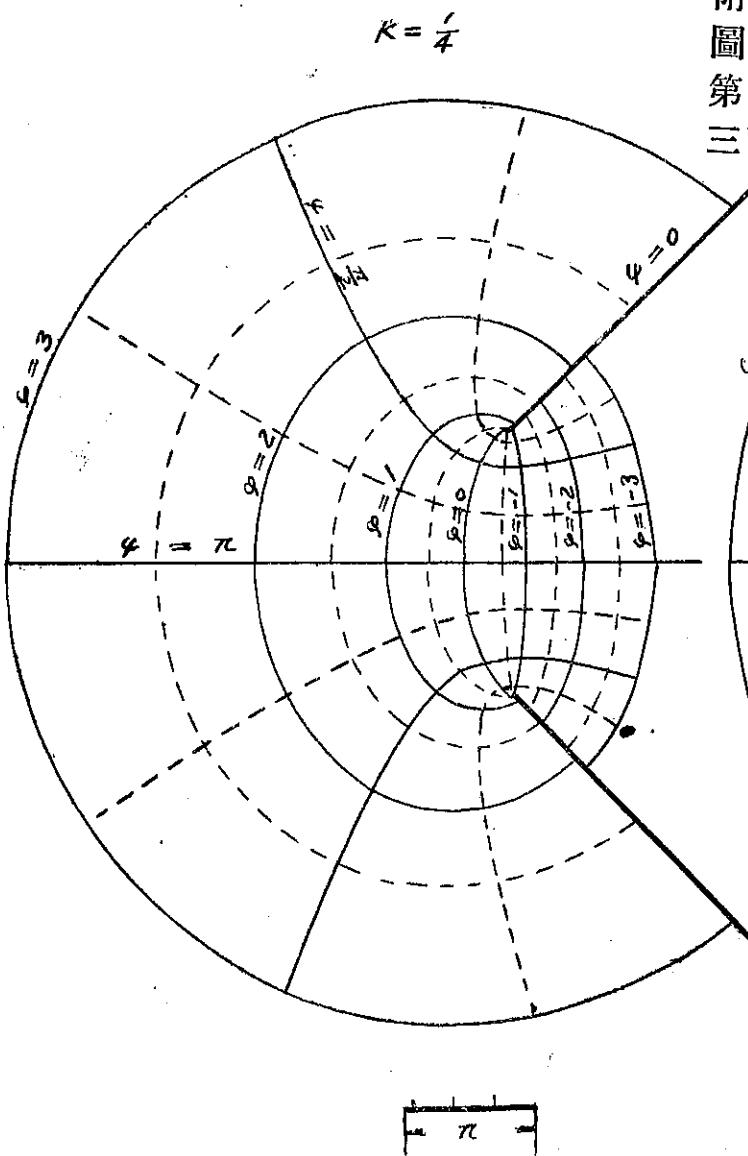
附圖第十一

一直線隔壁ノ流線圖



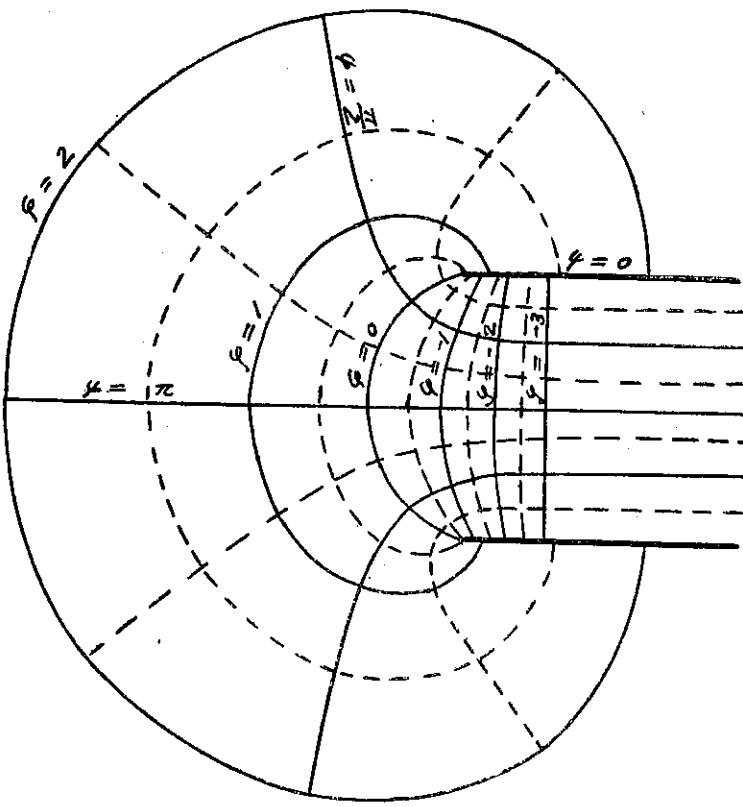
附圖第十二

直角隔壁ノ流線圖



$$K = \frac{1}{4}$$

$$K = \frac{1}{2}$$

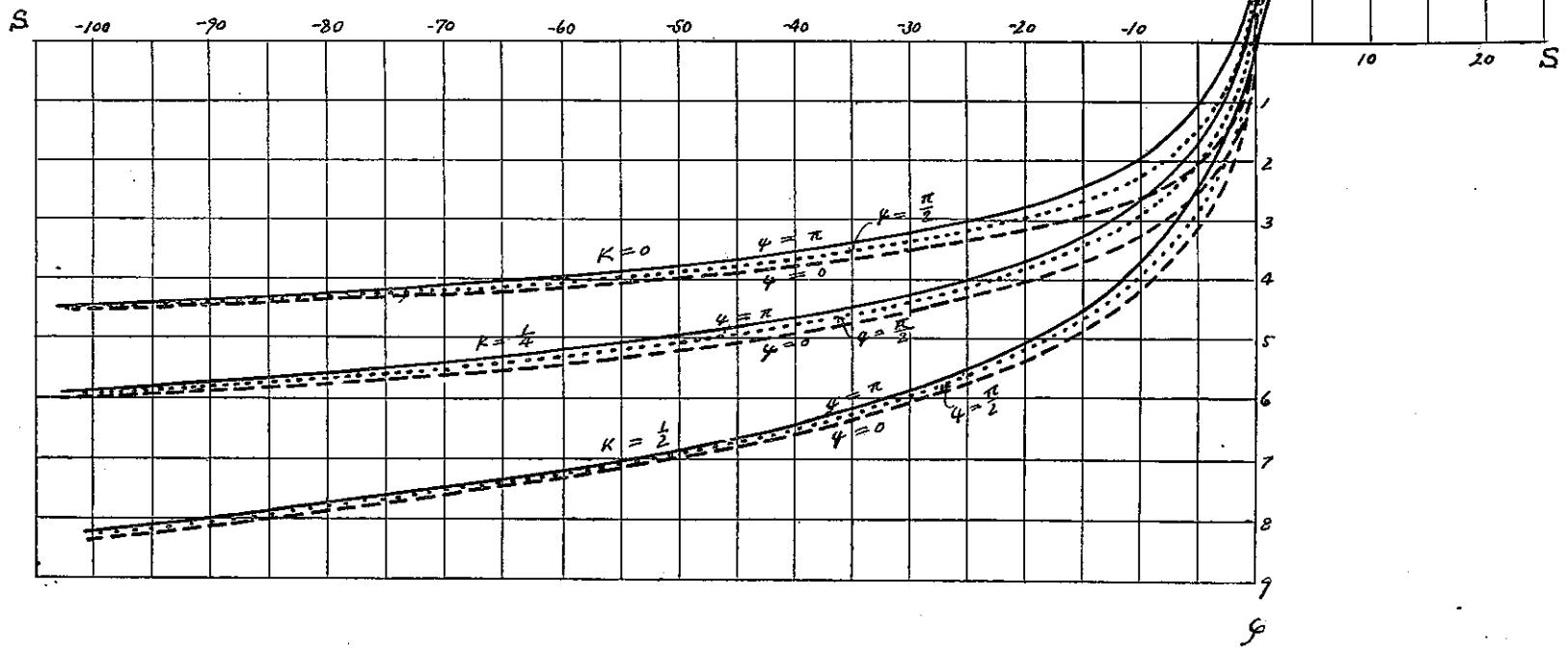


π

π

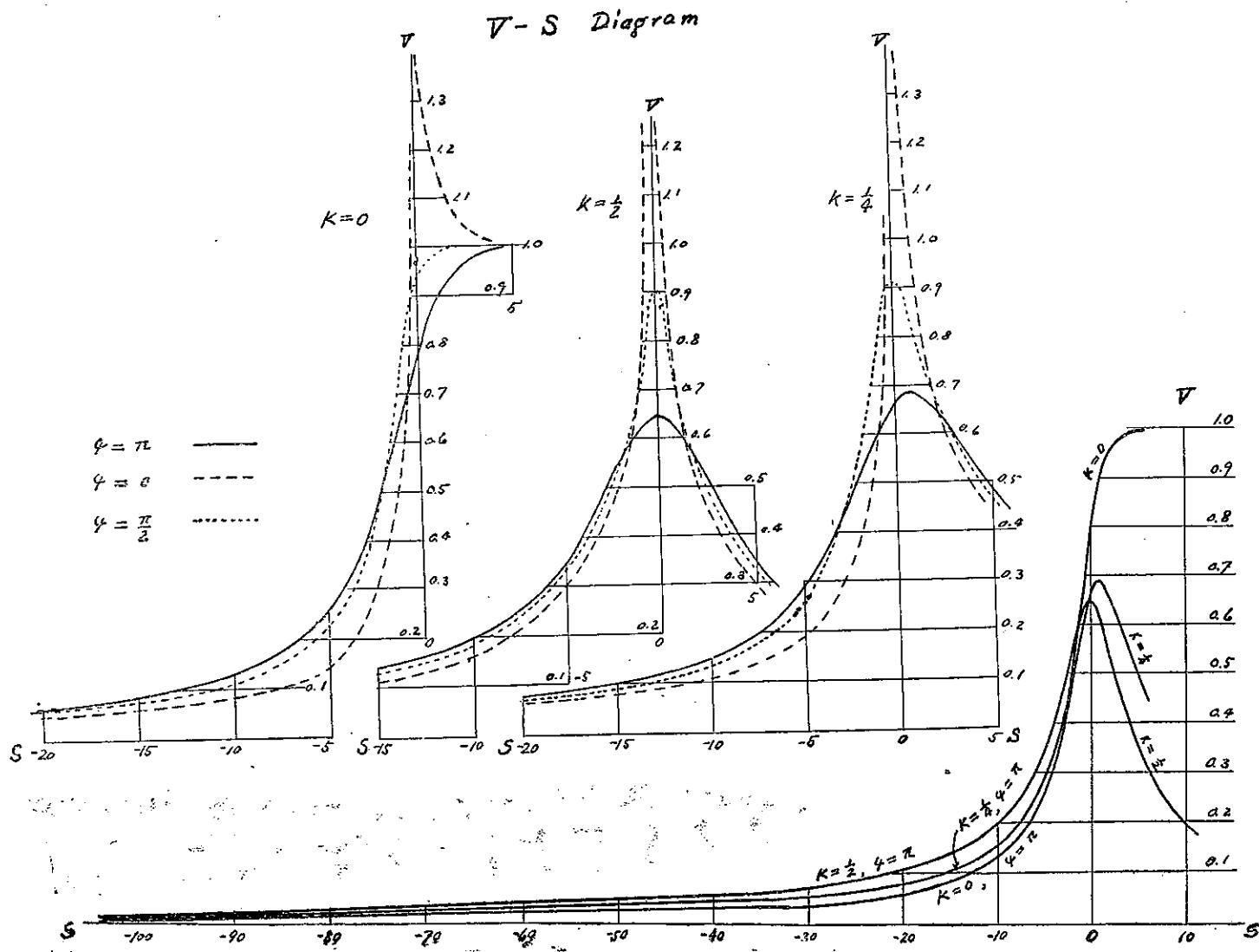
π

附圖第四

 φ -S 圖表

附圖第五

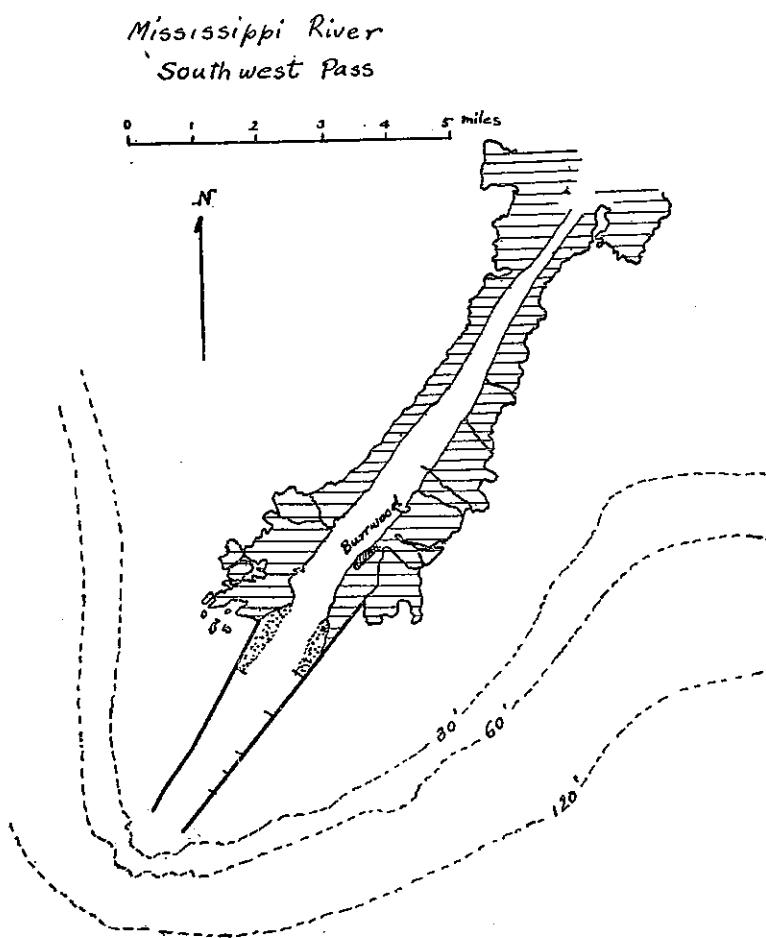
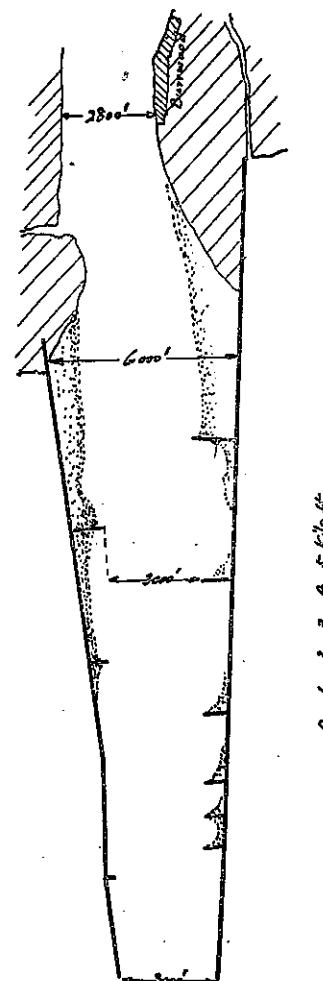
V-S 圖表



附圖第六

みししばー南西口圖

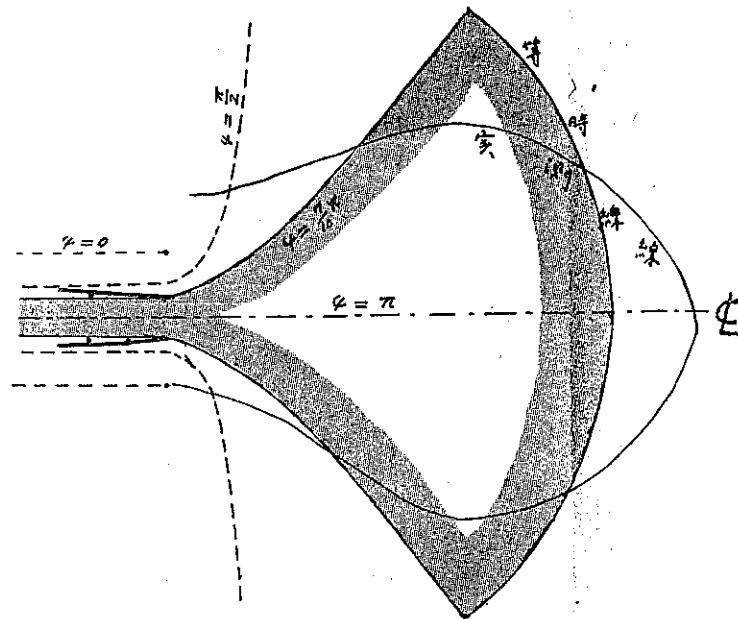
（土木學會誌第七卷第五號附圖）



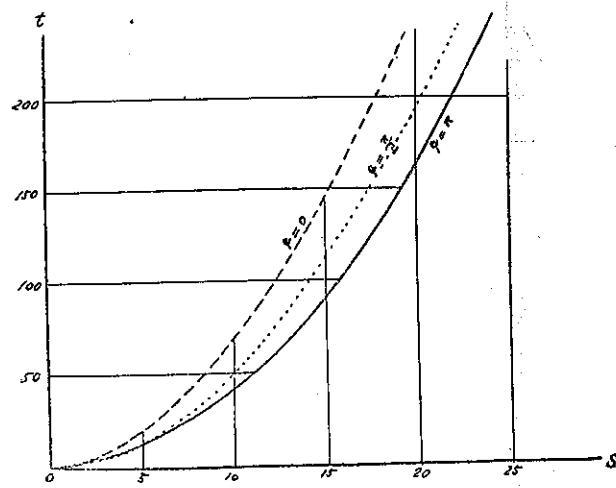
984-5

附圖第九

みししっび - 南西口等時線圖

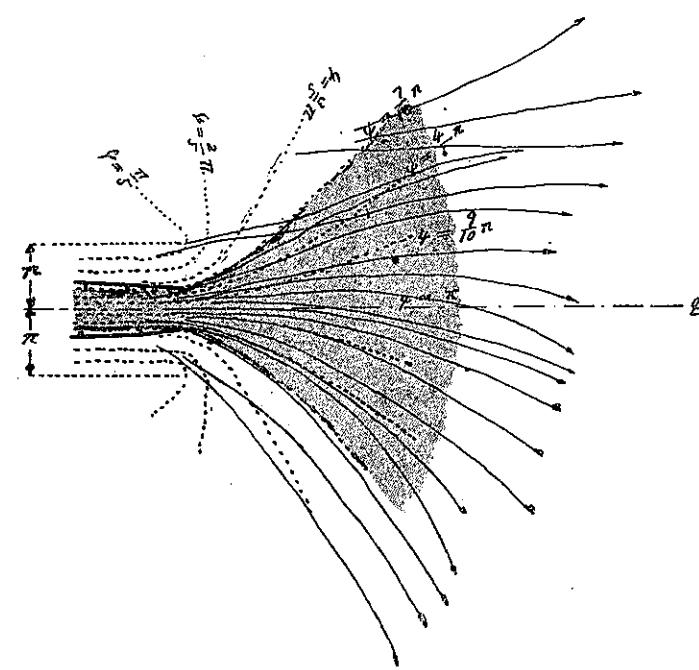


T-S 附圖



附圖第七

みししっび - 南西口流線圖



(土木学会論文集第55号)

484-6

附圖第八

(土木系土壤第七學期第五次課)

等速線圖

